

建設経済委員会 会議記録

- 1 期 日 令和4年11月17日（木）
午前9時24分 開会
午後0時5分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 田中 藤一郎
副委員長 芹澤 正志
委員 浅田 徹、太田 智博、
須山 泰一、前田 敦司、
前野 文孝、松井 正志
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主査 伊藤 八千代
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

建設経済委員長 田中 藤一郎

建設経済委員会 次第

日時：2022年11月17日（木）9:30～

場所：第3委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について＜別紙「事務概要」＞

【前半】

〔環境経済部〕 環境経済課、大交流課

〔コウノトリ共生部〕 農林水産課、コウノトリ共生課、地籍調査課

〔都市整備部〕 建設課、都市整備課、建築住宅課

【後半】

〔各 振 興 局〕 城崎振興局・城崎温泉課、竹野振興局、
日高振興局、出石振興局、但東振興局

〔上下水道部〕 水道課、下水道課

〔農業委員会事務局〕 農業委員会事務局

※報告事項（農林水産課）

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項＜別紙1＞

(3) 各種委員の選出について＜別紙2＞

(4) 委員会の席次について＜別紙3＞

5 その他

6 閉 会

建設経済委員会名簿(11/17)

【委員】

職名	氏名
委員長	田中 藤一郎
副委員長	芹澤 正志
委員	浅田 徹
委員	太田 智博
委員	須山 泰一
委員	前田 敦司
委員	前野 文孝
委員	松井 正志

8名

【当局】

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
環境経済部長	坂本 成彦	環境経済課長	富岡 隆		
		大交流課長	宮垣 均	大交流課参事	島津 太一
				大交流課参事	瀧本 文代
コウノトリ共生部長	川端 啓介	農林水産課長	柳沢 和男	農林水産課参事	村田 一紀
				農林水産課参事	山本 隆之
		コウノトリ共生課長	宮下 泰尚	コウノトリ共生課参事	宮田 裕史
		地籍調査課長	依田 隆司	地籍調査課参事	土阪 善晴
都市整備部長	澤田 秀夫	建設課長	富森 靖彦	建設課参事	北村 省二
		都市整備課長	久田 涉		
		建築住宅課長	山本 正明	建築住宅課参事	谷垣 秀人
城崎振興局長	植田 教夫	地域振興課参事	橋本 郁夫	城崎温泉課長	山田 和彦
竹野振興局長	石田 敦史	地域振興課長	平尾 喜彦		
日高振興局長	小谷 士郎	地域振興課参事	吉田 政明	地域振興課参事	上野 和則
出石振興局長	村上 忠夫	地域振興課参事	川崎 隆		
但東振興局長	大岸 和義	地域振興課参事	小川 一昭		
上下水道部長	河本 行正	水道課長	谷垣 康広	水道課参事	井垣 敬司
		下水道課長	榎本 啓一	下水道課参事	堀田 政司
農業委員会事務局		農業委員会事務局長	安藤 洋一		

35名

【議会議務局】

職名	氏名
主査	伊藤八千代

1名

計 44名

建設経済委員会重点調査事項

(2022. 9. 21)

- 環境経済戦略の推進について
- 農林水産業・商工・観光・特産振興等経済支援、地域活性化施策の推進について
- 有害鳥獣対策の推進について
- 地域内幹線道路の整備促進について
- 都市計画マスタープランについて
- 公営住宅のあり方について
- 下水道事業計画及び地域水道ビジョンの推進について
- 専門職大学と演劇のまちについて
- 新型コロナウイルスに係る地域経済対策について

午前9時24分開会

○委員長（田中藤一郎） おはようございます。

定刻より少し早いですけれども、建設経済委員会を開催したいと思います。

それでは、私なりに挨拶をいうことで、本日、新しくまた委員会のメンバー替わりました。私自身は、常任委員長を2回目という事で、余裕あるかないかっていえば、あまりないんですけど、しっかりやっていきたいなというふうに思っています。

ただ、本当にコロナ禍の中で、非常に豊岡市の経済も厳しいところは厳しいです。特に観光産業でいいますと、2年半以上苦しみの中にある中で、明るいニュース、光なども見えつつもありますけれども、油断ならないというところがあるのかなというふうなところでいいますと、やはり建設経済委員会での形がどういう形をしっかりと取っていくかによって、生かすも殺すもになってしまう場合もあるのかなというふうに深く考えております。

また、市長のほうは特に考えていきながらやるというふうな形を取られておられます。これは民間でも同じようなところがありますので、ちょっと常識にある意味とらわれることなく、いろんな積極的なアイデアだったり、考えたことを出していただきながら、委員会と共に豊岡市の経済を発展させていきたいなというふうに思っておりますので、これは本当、皆さんのご協力ないことには前に進みませんので、よろしくお願ひしたいなど。

最後に、1年間、私のモットーであります、明るく楽しく、今回は真剣にを入れていきたいなというふうに思っておりますので、1年間、どうぞよろしくお願ひします。

本日の委員会に当たりまして、コウノトリ共生部の地籍調査課、上阪参事、城崎振興局城崎温泉課、山田課長より、本日の委員会を欠席する旨の申出があり、これを許可しておりますので、ご了承願ひます。

本日の委員会ですが、新型コロナウイルス感染対策の関係で、委員会室の密集をできるだけ軽減するため、当局職員の出席を前半と後半と2つのグル

ープに分けて行いたいと思いますので、ご了承願ひます。

それでは、3番、自己紹介に入ります。

今回は、役員改選後、初めての委員会です。ここで出席の皆さんに自己紹介をいただきたいと思ひます。

まず、委員からですが、私が委員長ということで、前野さんから横、浅田さん、ぐるっと回っていきたいと思ひます。

改めまして、このたび当委員会の委員長を拝命しました田中藤一郎です。1年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員（芹澤 正志） 皆様、おはようございます。

このたび副委員長を仰せつかりました芹澤と申します。私の本来の課題であります委員会だと思ひますので、また、副委員長も初めての経験でございます。委員長をしっかり支えて頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○委員（浅田 徹） おはようございます。浅田でございます。久しぶりにこの委員会になりました。

経験はありますけども、過去を振り返る、前向きに、また真剣、心機一転、頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○委員（前田 敦司） おはようございます。前田です。

本当に観光と農業と、あと公園と。今までの議会質問でもさせていただきましたが、より議論を深めていけたらと思ひます。よろしくお願ひします。

○委員（太田 智博） 皆さん、おはようございます。

去年は総務委員会でお世話になりました、建設経済委員会は初めてでございます。勉強しながら精いっぱい頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

○委員（松井 正志） 松井正志と申します。初めて

みたいなものですから、どうぞよろしく。

○委員（須山 泰一） 須山泰一です。昨年が続いて

ですが、まだまだ未熟なもので、いろいろと変な質問もするかもしれませんが、どうぞよろしくお願ひいたします。

- 委員（前野 文孝） 委員の前野です。勉強しながら頑張っていきたいと思えます。
- 委員長（田中藤一郎） 次に、環境経済部から、名簿順でお願いします。
- 環境経済部長（坂本 成彦） おはようございます。環境経済部の坂本です。改めて、よろしくお願いいたします。
- 環境経済課長（富岡 隆） おはようございます。環境経済課長の富岡です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 大交流課長（宮垣 均） おはようございます。大交流課の課長、宮垣です。よろしくお願いいたします。
- 大交流課参事（島津 太一） おはようございます。大交流課参事の島津でございます。よろしくお願いいたします。
- 大交流課参事（瀧本 文代） おはようございます。大交流課の瀧本と申します。よろしくお願いいたします。
- コウノトリ共生部長（川端 啓介） おはようございます。コウノトリ共生部の川端と申します。お手柔らかによろしくお願いいたします。
- 農林水産課長（柳沢 和男） おはようございます。農林水産課長の柳沢と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 農林水産課参事（村田 一紀） おはようございます。農林水産課の村田でございます。よろしくお願いいたします。
- 農林水産課参事（山本 隆之） おはようございます。農林水産課参事の山本です。よろしくお願いいたします。
- コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） おはようございます。コウノトリ共生課長の宮下です。どうぞよろしくお願いいたします。
- コウノトリ共生課参事（宮田 裕史） おはようございます。コウノトリ共生課の宮田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 地籍調査課長（依田 隆司） おはようございます。地籍調査課長の依田です。よろしくお願いいたします。
- 都市整備部長（澤田 秀夫） おはようございます。

都市整備部長の澤田です。よろしくお願いいたします。

- 建設課長（富森 靖彦） おはようございます。建設課長の富森です。よろしくお願いいたします。
- 建設課参事（北村 省二） おはようございます。建設課参事の北村です。よろしくお願いいたします。
- 都市整備課長（久田 渉） 都市整備課長の久田と申します。よろしくお願いいたします。
- 建築住宅課長（山本 正明） おはようございます。建築住宅課長の山本です。よろしくお願いいたします。
- 建築住宅課参事（谷垣 秀人） おはようございます。建築住宅課参事の谷垣です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 委員長（田中藤一郎） 最後に、議会事務局をお願いします。
- 事務局主査（伊藤八千代） おはようございます。事務局の伊藤です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 委員長（田中藤一郎） ありがとうございます。なお、後半でも委員の皆さんには自己紹介をしていただきたいと考えておりますので、ご了承願います。それでは、協議事項のほうに行きたいと思えます。（1）委員会所管事項の事務概要に入ります。まず、前半に、環境経済部、コウノトリ共生部及び都市整備部の順で、部ごとに説明、質疑を行い、後半に、各振興局、上下水道部及び農業委員会事務局という形で進めたいと思っております。なお、委員の皆さん、当局の皆さん、質疑、答弁に当たりましては、くれぐれも要点を押さえて、簡潔明瞭に行うなど、スムーズな議事進行を格別のご協力をお願いいたします。また、委員会での発言は、委員長の指名の後、マイクを使用して発言者の名を名のってから行っていただきますよう、ご協力をお願いします。まず、環境経済部の説明をお願いします。富岡課長。
- 環境経済課長（富岡 隆） では、早速ですけど、本年度の事務概要の進捗状況について説明させて

いただきます。

事務概要の5ページをご覧ください。時間の都合もございますので、主立ったもののみ説明ということになりますが、ご了承ください。

まず、経済政策の推進というところからです。

現況と課題につきましては、それぞれ省略をさせていただきます。

基本方針ですが、市内産業、企業の安定と強化を図り、ステップアップや創業などを促すことで地域経済の活性化を図ることとしております。

概要及び進捗状況のほうです。まず、1番の内発型産業育成の推進でございます。(2)の豊岡市経済ビジョンの策定というところですが、これは、今後10年間の本市の経済政策の羅針盤というようなことで、目指すべき豊岡市の経済の姿及びその姿を実現するための取組、方向性を策定するといったことでございます。進捗状況は記載のとおりでございます。今後ヒアリングやワークショップでいただいた意見を基に、専門家の助言を得ながら検討を重ねて、年度内に策定したいと考えております。

(3)以降につきましては、進捗状況は記載のとおりでございます。

次に、6ページをご覧ください。上から7行目の2、新型コロナウイルス感染症に係る企業支援の関係でございます。

具体的な事業につきましては、(1)の中小企業融資制度、それから(2)のステップアップ支援補助金のアフターコロナ対応型、それから(3)の商工団体と連携した経営相談の実施の3点をやっております。進捗状況につきましては記載のとおりでございます。

3番の環境経済事業の推進ですが、10月末現在で本年度1事業認定して、累計76事業となっております。

経済政策の推進は以上となります。

次に、7ページをご覧ください。商工振興の推進でございます。

基本方針からですが、1段落目には中心市街地の活性化、2段落目は特産品の振興、3段落目はふる

さと納税による市内経済の活性化というようなことを方針として取り組んでおります。

概要及び進捗状況ですが、1番の商店街活性化事業の支援です。豊岡駅通り、宵田商店街で行われた活性化の取組について支援をしております。具体的には、プレミアム付商品券事業と各商店街のイベントに対して支援をしております。

次に、2番の中心市街地への誘客促進でございます。これは、豊岡1925、カバンストリートを中心に誘客の推進を図っております。

次に、3の産業の人材育成の支援、地域ブランドの確立でございます。

2つ目のポツですが、「豊岡鞆×ふるさと納税」のシナジープロジェクトです。これは、ふるさと納税の一部を豊岡の認知度向上に投資して、その売上げを伸ばすとともに、ふるさと納税のさらなる増加につなげる好循環を目指していきたいということで行ってる事業です。本年度につきましては、豊岡鞆のブランディング、PR広報活動の強化、EC販売の強化など、豊岡鞆の認知度の向上のための施策を兵庫県鞆工業組合と一緒に取り組んでいるところでございます。負担金につきましては記載のとおりでございます。予算の都合もございますが、できれば3年間継続して取り組んでいけたらと今では考えてるところでございます。

次に、8ページをご覧ください。4番目の伝統産業の後継者育成支援でございます。

各団体への補助につきましては記載のとおりでございます。

なお、後継者育成に関しましては、地域おこし協力隊の人材で非常に効果を出しております。現時点で、麦わら細工に3名、杞柳に4名、出石焼に2名の協力隊員を委嘱しております。

次に、5番目のふるさと納税推進のためのPR強化でございます。

本年度、新たにANA(アナ)ふるさと納税という窓口を導入しまして、合計、現在7サイトで運営をしております。進捗状況は記載のとおりです。10月末現在の前年同期比で115%となっております。

ます。金額につきましては、10月末現在で3億2,952万5,000円の寄附をいただいております。例年、11月、12月が納税のピークとなりますので、引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

次に、6番のプレミアム付商品券事業でございます。進捗状況は記載のとおりです。

(5)番の販売実績ですが、10月末現在で7万8,541セット、約9億4,000万円の消費喚起につながっているという状況でございます。

次に、7番のPREMIUM豊岡+の関係でございます。

こちらも記載のとおりですが、(2)にありますように、現在、11月下旬から配送ができますように準備を進めてるところでございます。

商工振興の推進は以上です。

次に、9ページをご覧ください。企業支援の推進でございます。

基本方針につきましては、企業立地を促進すること、それから市の工業界の事務局を担っておりますので、製造業を支援することということにしております。

概要及び進捗状況です。まず、1の企業立地ですが、(2)のIT企業誘致です。本年度地方進出を検討する企業とのオンラインによるマッチングイベントに参加しました。記載のとおり、22社と面談を行いました。今後これらの社とのオンライン面談や、希望される社があれば豊岡市で活動していただくなど行う予定です。本市にふさわしい会社の進出につながるよう取り組んでまいります。

次に、1つ飛びまして、(4)です。但馬空港線の沿線の産業用地の整備です。本年度は戸牧農地につながる水路の整備工事を行っております。道路整備のスケジュールに影響されるところもありますが、盛土したところの地盤が落ち着いてきておりますので、来年度後半から販売開始を目指して取り組んでいるところでございます。

次に、10ページをご覧ください。上から4行目の2番目のものづくり支援です。

ものづくり支援センターという機能を市に置いておまして、工業系の技術相談に応じております。また、先ほど申し上げましたが、豊岡市工業界の事務局を担っております。進捗状況につきましては記載のとおりです。

企業支援の推進は以上です。

次に、11ページをご覧ください。移住定住の推進です。

基本方針ですが、人口減少の緩和に向けて、U・I・Jターンの獲得の強化と、地域おこし協力隊などの様々な人材と共に地域活性化のための活動を支援するということとしております。

概要と進捗状況です。まず、1番の移住定住の情報発信です。市の移住ポータルサイト「飛んでるローカル豊岡」を通じての情報発信や、それとジョブナビ豊岡を通じて、豊岡で働く魅力を含めた企業の求人情報の発信を行っております。

次に、2番目の移住定住の相談・支援でございます。(1)ですが、課内にワンストップ窓口を設置しております。

また、(2)の暮らしのパーラーですけれども、こちらは土日、祝日の対応ですとか、現地のアテンド等を行っていただいて、相談体制の厚みを増しながら取り組んでるところでございます。

(3)のUIターンの就職促進イベント等の実施につきましては記載のとおりです。

12ページをご覧ください。次に、(4)、(5)、(6)につきましては、各種移住支援の施策となっております。実施状況につきましては記載のとおりです。

次に、3番目の高校生の活動支援です。市内の高校生が一度豊岡を離れても、Uターンしてもらうことがとても大事となってまいりますので、ふるさとへの愛着醸成を目的として、高校生、学校が行う活動等への支援を行っております。本年度は、現在のところ2件を実施しておまして、今後あと3校ぐらい実施していただけるような予定と聞いております。

次に、ジョブサポ豊岡の運営でございます。進捗

状況は記載のとおりでございます。

次に、5の地域おこし協力隊の推進です。本年度の6月募集の状況は記載のとおりです。おかげさまで、3.5倍の応募をいただいております。

次に、13ページをご覧ください。(2)の地域おこし協力隊の定住や起業に向けた支援のところで、4月から10月で任期を終了された方が3名おられますが、3名とも市内に定住をいただいております。

参考に記載しておりますが、11月1日現在の隊員数は47名となっております。

最後に、6番の空き家等の活用促進でございますが、移住のための重要なアイテムの一つが住む家ということになります。希望は、借家よりは一戸建てというところ、アパートよりは一戸建てという希望が多いですので、飛んでるローカル豊岡の掲載物件の充実を図るために、現在、専用の調査アプリを用いて空き家の調査を行っているところでございます。

次に、(2)の学生用シェアハウスの改修補助金ですが、本年度1件を決定しております。

環境経済課の説明は以上となります。

○委員長(田中藤一郎) 宮垣課長。

○大交流課長(宮垣 均) 大交流課からは、小さな世界都市の実現のための戦略の一つであります大交流の実現に向けて、情報戦略の推進、国内誘客の推進など、6項目について説明させていただきます。大分本数、内容が多いので、できるだけ簡潔に説明させていただきたいと思っております。よろしく願います。

14ページ、15ページをご覧ください。情報戦略の推進についてです。市の魅力を多くの人に発信し、豊岡ファンを増やしていくとともに、現在、各課で行われている情報発信において、部署横断的に連携して一体感のある情報発信を行ってまいります。

概要及び進捗状況についてですが、1つ目の市内の横断的な情報戦略に係る企画調整としまして、情報発信における各部署間の連携を推進し、市全体の

情報発信力を強化していくため、10月に市の特徴的な事業を推進している部署をメンバーとして、市内連携組織を立ち上げました。昨日、第1回目となる研修などを行っております。

次に、豊岡ファンミーティングの開催についてです。豊岡演劇祭の期間中に、本市の取組に共感してくれる方々との交流の場である豊岡ファンミーティングを開催いたしました。市内各所を回るエクスカーションと、それから出石永楽館で、豊岡とゆかりのあるフジテレビアナウンサーの佐々木恭子さんを招いたトークセッションを行っております。参加者は95名です。

また、3番のメディア招集の実施についてですが、発信力のあるメディアを招聘し、または支援しまして、メディアへの掲載数の増加に取り組んでおります。10月末までの実績は、海外メディア掲載数で874件、国内メディア掲載数69件の計943件となっております。

その他の事業についてはご清覧ください。

続きまして、16ページ、国内誘客の推進についてです。いまだに続きます新型コロナウイルス感染症により疲弊する市内の観光事業者等の方々の現状に対処するため、反転攻勢をかけるとともに、ポストコロナ社会の新たな需要を取り込み、市内の周遊を促す各地域の魅力強化を行ってまいります。

概要及び進捗状況ですが、まず、1番目、観光協会等運営支援についてです。各観光協会及び豊岡ツーリズム協会の運営支援として、6つの観光協会へ5,048万2,000円の補助を行っております。また、メディア、旅行エージェンツの招聘やインターンシップ事業の支援として、豊岡ツーリズム協会に426万1,000円の補助を行っております。

2つ目、豊岡観光DXの推進についてです。宿泊予約データを収集、分析します豊岡観光DX基盤を活用し、新たなサービスを展開し顧客満足度を向上させ、豊岡に対する思い入れが深い来訪者を育てる豊岡観光DXを推進しています。協議会に参加する44施設の宿泊データを蓄積しながら、各施設の予約管理システム、PMSですが、の共通化を行い、

宿泊者に再来訪を促す手法を現在構築中であります。

17ページをご覧ください。3番、ジオパークの啓発促進です。山陰海岸ジオパークの啓発にも取り組んでおりまして、今年度はユネスコ世界ジオパークの再認定審査が去る10月9日から13日にあり、対応したところでございます。

続きまして、4番目、玄武洞公園整備事業についてです。玄武洞公園整備事業につきましては、去る8月31日に工事を完了いたしまして、整備工事費は1億5,954万7,000円となっております。それに先立ちまして、8月1日からは、有料化ゾーンをオープンさせておりまして、8月1日から10月末までの入園者数は4万6,268人となっております。

続きまして、6番目、観光需要早期回復のための観光キャンペーンについてです。観光需要を早期に回復させるために、市内の様々な魅力を生かした観光キャンペーン、「どう転がっても面白いっ 六面体豊岡」デジタルスタンプラリーキャンペーンを行いました。実績等については、表に記載のとおりです。

その他の事業についてはご清覧ください。

続きまして、18ページです。海外戦略の推進についてです。市にとって重要な成長市場でありましたインバウンドについては、情報発信や情報提供を継続して行い、これまでに築いてきました観光地としての認知度の維持に努めてまいりました。

しかしながら、7月から9月の外国人延べ宿泊者数は、2019年同期比でまだ91.6%減と、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてまだ大幅な減少という状態となっております。ようやく10月11日より入国制限がなくなりまして、ビザなし、個人手配での観光が可能となるなど、訪日観光が再開されることとなりました。それよりも早くウェルカムキャンペーンを豊岡市としては開始し、ターゲットである欧米、豪を中心とした英語圏と台湾を中心とした繁体字圏の個人旅行者に対して選ばれる観光地であり続けるよう、誘客促進に取り組

んでおります。

概要及び進捗状況についてですが、まず、1番目のインバウンド誘客促進についてですが、8月からウェルカムキャンペーンを実施しまして、9月以降のサイト閲覧数や宿泊予約数の増加につながっております。本市外国語版ウェブサイトの閲覧数は、コロナ前の2019年の9月から10月の数と比べても10%増しておりますし、また、同じ外国語版ウェブサイト経由の9月から10月の宿泊予約人数は、2019年同期比の10%増となっております。

また、9月からは海外の旅行会社やインフルエンサーを招いたファムトリップも行っておりまして、既に6社が来訪していただいておりますし、今後も6社のファムトリップ等を予定しております。

19ページをご覧ください。受入れ体制の強化として、持続可能な観光地づくりに向けた事業者セミナーの開催や高付加価値化の観光コンテンツの造成を行っております。

その他の事業についてはご清覧ください。

続きまして、20ページ、21ページ、芸術文化観光専門職大学との連携についてです。4月に新たに84人の2期生を迎え入れた芸術文化観光専門職大学ですが、地方創生の新たな拠点として、さらに連携を深めていきたいと考えております。来年2月には、2年生の市役所での臨時実務実習が行われる予定になっており、豊岡市役所では、4つの部署で28名の学生を受け入れる予定です。学生の地域活動を促し、新しい動きだけではなく、豊岡への定着につながるような実習に取り組んでまいりたいと考えております。

概要及び進捗状況ですが、1番、まず、芸術文化観光専門職大学の地域連携ということで、地域連携事業を大学内に設置されています地域リサーチ&イノベーションセンター、通称RICと協働して実施しております。実施事業は、アの豊岡市高大連携事業実施業務です。実施業務は、市内の高校生、それから高等専修学校生を対象にコミュニケーションワークショップを行っておりまして、今年度は、

出石特別支援学校を含む9校で52回が予定されておりまして、現時点で39回が実施済みであります。

そのほかにも、豊岡市ジュニアプレカレッジ事業ですとか、ヘルス&スポーツツーリズム事業推進ですとか、多文化共生推進事業などを実施しております。

続きまして、22、23ページ、豊岡演劇祭の開催支援についてです。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大における緊急事態宣言により開催できなかった豊岡演劇祭ですが、今年度は、2022年9月15日の木曜日から25日の日曜日の11日間で開催いたしました。

概要及び進捗状況を説明させていただきます。まず、1の実行委員会総会の開催です。実行委員会には、本年度から豊岡商工会議所と豊岡市商工会も構成メンバーに加わっていただきました。そのことにより、さらに市内事業者との連携、市民の方々が参加しやすい仕組みを計画してまいりました。

そして、開催しました豊岡演劇祭2022ですが、公式、フリンジ、連携の各プログラムを合わせまして97プログラム、そのうち1つは、台風14号の影響により中止いたしておりますが、97プログラムを実施し、延べ来場者数は1万8,250人でありました。特に、地域連携プログラムとして実施したナイトマーケットは、江原と、それから豊岡で計5日間開催しまして、会場で行われた大道芸などとともに、多くの市民の方々が楽しめました。また、今回からは本格的に芸術文化観光専門職大学の学生も実習としてスタッフなどで関わっていただき、開催を支援していただいております。

最後に、24ページです。城崎国際アートセンターの運営についてです。市内に世界最先端の舞台芸術の創作の場があることを最大限に生かすため、着実にアーティスト・イン・レジデンス事業を行っていくとともに、さらなる情報発信に努めております。

今年度の概要及び進捗状況について説明させていただきます。まず、1番のアーティスト・イン・レジデンス事業についてです。今年度の滞在アーテ

ィストは、昨年度からの延期3組を含めまして、19組を予定しておりまして、それぞれのアーティストが地域交流プログラムを実施していただいております。

2番目の文化芸術創造交流事業についてです。豊岡アートシーズン2022を他の市内の文化施設と連携して実施しておりまして、城崎国際アートセンターでは、今後2作品の公演を予定しております。

25ページをご覧ください。一番下、7番目のWORKATION IN TOYOOKA@KIACです。4月1日から利用を開始しましたWORKATION IN TOYOOKA@KIACでは、4月から10月までの半年間で42件の利用がありました。

その他の事業についてはご清覧ください。

大交流課からは以上です。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

質問等はございませんか。

須山委員。

○委員（須山 泰一） 以前にもお聞きしたことがあるんですが、改めて、プレミアム商品券、PREMIUM豊岡プラスですけど、今月の下旬から12月頭にかけて発送されるっていうことで、本来、環境経済課のあれではないかもしれないけど、プレミアム商品券のスキームを使って行うっていうことで、環境経済課が行われてるっていうことでしたので、使えるのが1月の末までということで、12月頭に届いてから1月末まで、期間短いですけど、先日、朝来でもそういう商品券が発送されるっていうニュースを読んだ際に、朝来では、たしか2月まで使えるというようなことでした。

やはり1月末までということでしょうか。それはある意味仕方ないことでしょうか、お聞きします。

○委員長（田中藤一郎） 課長。

○環境経済課長（富岡 隆） 今回、交付金を活用した事業ですので、3月末までに取扱店舗のほうにも換金を確実に終えないといけないというところがありまして、それが終わってから事務処理をして、かかった事務費も全部精算して整える必要があります。

ます。

1月末までにさせてもらってますのは、1月末までの買物してもらったものについて、2月の中旬までに各取扱店が整理をされて金融機関に持っていかれて、その後、こちら、換金作業、それぞれの店舗のほうに商品券代の現金をお振り込みするという作業がありますので、それが終わりましたから全ての事務を精算をして、実績報告を3月末までに上げるというスケジュールになりますので、2月末までといいますと、3月末にちょっと事務を終えることができませんので、1月末でご容赦いただきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 須山委員。

○委員（須山 泰一） 朝来はできるんですかね、多分。何でなんでしょうか、分かりますか。

○委員長（田中藤一郎） 富岡課長。

○環境経済課長（富岡 隆） 他市の状況につきまして細かいところまでは確認はしておりませんが、今回発行させていただきます件数が、一応予定、全世帯になりますので、豊岡市の7万8,000人の方に一応全員お配りする、どれだけ使われるかっていうのは分かりませんが、それだけの枚数と、それから、多くの、900近い店舗の振り分けとかございますので、他市と同じ事務ができないかと言われると、ちょっと量的に豊岡としては1月末で締切りを切らせていただかないと対応ができないというふうに判断しております。以上です。

○委員（須山 泰一） 分かりました。ありがとうございます。

○委員長（田中藤一郎） そのほかありませんか。
太田委員。

○委員（太田 智博） 同じくプレミアム商品券について、ちょっと確認させていただきたいんですけど、今販売されてるPREMIUM豊岡、10月末で65.5%ということで、各家庭によっては、配布はされてるけど、なかなかすぐに購入ができない方もいらっしゃるって、例えば冬のボーナスが入ってから購入しようかという、考える方もおられるように聞

いております。

その中で、私が聞く中ではかなり評価がよくて、大変使いやすいという点もある中で、締切り、利用期間も決まってるんですけど、これが例えばもう来年に入って、販売状況がもう少し伸び悩むようであれば、何か新たな手だてをして、できるだけこの市内にお金が落ちるような施策を考えておられるのかというの、1点。

今回PREMIUM豊岡プラスのほうも出てきますので、買える方はまたPREMIUM豊岡プラスでいいんですけど、来年、年明けたぐらいに、この販売率が例えば75%ぐらいで止まっていますよねとなったときに、できるだけ100パーに近づくような施策を何か考えておられるのか含めて、ちょっと確認をさせていただきたいと思います。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 課長。

○環境経済課長（富岡 隆） 予定しております枚数がちょっと売れ残った場合どうだということ。

○委員（太田 智博） はい、そうです。

○環境経済課長（富岡 隆） そのことについても検討はしておるんですけども、他市、他県の他市になります、早い者順みたいなどで販売されたときに、大変混乱も生じたっていうようなこともございます。平成26年か27年のときも商品券をして、そのときも売れ残ったものについて先着順で販売を追加したことあるんですが、そのときも大変な混乱ができましたので、今回は限られてる期間もあります、時間もありますし、それから、新たに12月に5,000円の各戸配布を予定しておりますので、現時点では売れ残った場合、追加で販売することは考えておりません。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 太田委員。

○委員（太田 智博） はい。

○委員長（田中藤一郎） 前田委員。

○委員（前田 敦司） 本当に同様のよう質問させていただこうと思ったんですけど、今のお話で大方分かったんですけど、これ、何でしょう、交付金があって使われる中で、僕も追加で販売したらいいんじ

ゃないかなと思ってたんですけど、されないということなんですけど、残った分はどうされるんですか。予算が残る場合。

○委員長（田中藤一郎） 富岡課長。

○環境経済課長（富岡 隆） 交付金の活用はこの事業だけではありませんので、最終的に、過不足については財政課のほうの運営と考えておりますが、この財源が余った場合、来年も繰越しができるかどうかというところで変わってくるかなと思うんですが、もし繰越しができないとなれば、この事業も含めて、予算残のところは国に返却ということの手続になるのかなというふうには考えております。

○委員長（田中藤一郎） 前田委員。

○委員（前田 敦司） 多分そうだろうなと思っていて、せっかく国から交付していただいているものもあるので、できれば地域内に落ちるような形でお考えいただけたらうれしいなと思います。以上です。

○委員長（田中藤一郎） そのほか。
前野委員。

○委員（前野 文孝） 2点伺っておきたいと思いません。

今、六面体事業の中でもどの程度の参加人数があったということはこの指標で出していただいていますから、本来の事業の目的は、これによって城崎に集中している観光客をどういうふうに分散させるかという視点で見たときに、この事業によってどのように分散が達成できたのかという点について、どのように、何らかのKPIを持ってらっしゃる、もしくは想定されているのであれば、その点をお聞かせください。

もしくは、資料がもし委員長が許されるのであれば、頂きたいと思えます。

それともう1点、ファンミーティング、今年度、新しくこちらのほうでやったんですが、今回の実績というか、手応えについてどのようなことを考えられているのか、もしくは来年度にどう生かしていくのかについてこの2点について。

○委員長（田中藤一郎） 宮垣課長。

○大交流課長（宮垣 均） 1点目の「どう転がっ

ても面白いっ 六面体豊岡」デジタルスタンプキャンペーンの実績及び結果についてなんですけど、市内周遊のほうで、そういった指標というのは、なかなかこちらも把握できづらいところもありますので、持っておる指標として一番近いところは、市外の参加者の方々が平均の滞在日数がどれぐらい伸びたのかというところにもちょっと起因するのかなというふうに思っておりますので、その部分で言いますと、春キャンペーンの部分では1.95日と、前年同期比に比べて約8.3%ぐらい増しております。それから、夏キャンペーンについては2.05日の平均滞在日数となっております、前年の同期比としては12%ぐらいの増となっておりますので、市内を周遊してもらい、またどこかに滞在が延びて、泊数が伸びているということであれば、ある程度の周遊効果があったのかなというふうに思っております。

それから、もう一つ言うのであれば、クーポンを同時に発行しております、そのクーポンの延べ利用回数としては、使っていただいたところが出石とか、そういったところもありますので、そういったところでの利用が伸びていけば、周遊効果もあったのかなというふうな判断をしております。

それから、豊岡ファンミーティングの件につきましてですが、今年度かなり豊岡に関わっておられる市内の方々等のトークイベントということで開催させていただいた中では、やっぱり豊岡のことをすごく非常に深く思ってくれている方々のお話を聞けたということで、参加していただいた東京などから来られた約20名の方々、今回本当に最初は30名ぐらいの参加があったんですが、台風14号の影響を受けまして、人数が減って20名ぐらいになったんですが、その方々の評価も、本当に豊岡のことを愛している市民の方々がおられるということで、すごくそこには共感していただきまして、一定の効果は上がったのかなというふうに思っています。

それで、いろんな、そこからそれぞれの参加者がどういった形でまた豊岡のために何かできるのかなというように思いを持っていただけたという

ふうには感じておりますので、こういった効果をうまく利用して、豊岡のファンを増やしていきたいというふうには今現在考えております。

○委員長（田中藤一郎） 前野委員。

○委員（前野 文孝） ここでのデジタルスタンプラリーについては、できれば、せっかくデジタルなので、どのポイントがどれぐらいのアクセスがあったのかとか、スタンプをされたのか、そういったものがあれば一定の、もっと詳細なものと思いますので、そんなデータがもし今後取れるのであれば、そうしていただきたいなと思います。

それから、ファンミーティングもトライアルという変化をさせてきてるんですけども、来年度その反省を活かしていただきたいと思います。以上です。

○委員長（田中藤一郎） よろしいですか。

そのほか。

そうしましたら、ちょっと私も2点ほど教えていただきたいと思います。

環境経済部のほうの伝統産業の後継者問題の中で、地域おこしの方々がその後、豊岡のほうに定住していただいとるという方が多いという中で、直接その方々にちょっとお話を聞くと、例えば伝統的工芸品の方々というようなことを併せると、非常に定住していきたい気持ちがあるものの、費用的なところで非常に意味ちょっと苦しんでおられるっていう話を聞いております。そういったいろんな定住に向けての施策はあるんですけど、別枠というんでしょうか、やっぱり豊岡の文化だったり、継承する産業のこともあるわけで、何かあるのかなのかを1点聞かせていただきたいのと、やはり大交流のほうでも、コロナがあるものの、国のほうはウィズコロナに方向を切っておりますので、インバウンドっていうふうなところ、非常に大きなポイントになっていくんだというふうに思います。

ただ、これは各地域でも、各市、県も併せたところで、非常に力を入れていく中で、豊岡市として、僕がよく使う言葉で、豊岡市オリジナル的な政策だったり付加価値だったりっていうのが考えられるのかいないのか。これまでのPRだとか、そうい

った形だけでやろうと考えておられるのか、その2点ちょっと教えていただきたいと思います。

課長。

○環境経済課長（富岡 隆） では、最初の伝統工芸の後継者の方のほうの支援につきまして説明をさせていただきます。

別枠でというお話でしたけども、実は地域おこし協力隊の方が任期を終えて豊岡市で起業しようとする場合は、そこで事務所等の経費の整備がありますので、それに係る費用の2分の1、上限200万円いうことでさせてもらっておりますが、そういう別の補助を用意しておりますので、またご相談いただけたらというふうに考えております。

環境経済課のほうは以上です。

○委員長（田中藤一郎） 宮垣課長。

○大交流課長（宮垣 均） 市としてのインバウンド向けのオリジナルな政策としましては、いち早く高付加価値化に取り組んでおまして、コウノトリツーリズムとしまして、市内の自然や文化など、産業をテーマとした体験型の高付加価値ツーリズムの商品造成のほうに取り組んでおります。

○委員長（田中藤一郎） 分かりました。

情報等々、1つ目のほうですけども、情報等々またしっかりとおられる方にはしとられるかもしれないんですけども、できる限りそういったところをしっかりと伝えておいていただきたいというのが1つと、インバウンドのほう、体験型っていうのはやはり民間の方々の協力があるの形だというふうに思いますので、言うのは簡単なんですけれども、やはりそういった初めて体験をされる方って、やっぱり若干恐らくいろいろ体験する中で、なかなか一歩出てこない。お客さんが来るのかな、来うへんのかなというようなことがあったりだとかしますので、ただ、一歩踏んでいただくと、意外と受け入れしていただけるっていうようなところで、ですので、最初の一歩をどれだけしっかりアプローチだったり、何かちょっと特別な支援といいましょうか、そうすることによって、こうした費用はちょっと見直そうとかいうふうな形を最初取ることによって、

今後は民間の力を生かしていけるのかなというふうに思いますので、そういった方向づけをしっかりとやっていただきたいなというふうに、その点あたりどうでしょうか、考えられますか。

どうぞ。

○大交流課長（宮垣 均） 今現在やっておりますこの高付加価値のツーリズムの商品造成というのは、近畿運輸局さんの事業が直接でして、その事業費を活用して、こちらが体験メニューをつくらせていただいているような形ですので、民間事業者の方々には直接的な経費はかかっておりませんので、一步を踏み出すための部分として、そういった事業を活用させてやっております。

○委員長（田中藤一郎） 十分PRといいでしょうか、情報提供だけはしっかりと。

そのほか、大丈夫ですか。

芹澤委員。

○委員（芹澤 正志） すみません、ちょっと1つだけ。

アートセンターの運営は非常に重要な問題だと思ってまして、こないだも関係者の方々といろいろと懇談をしたんですけども、1つは、前々から議会のほうでも課題になってますアーティスト・イン・レジデンスの完全な無料化っていうもの、トイレトペーパー代ぐらいはもらったらいんじゃないかなっていうような部分の議論はその後どうなってるかというのと、あと、テレワークについても、これ、半年間で42件ということは、演劇祭のときを除くとほとんどゼロに等しいっていうような計算になるんですが、結局は、前々から課題になってます、今やってるものに、以外に、非常に観光客や市民にとっても、そこに訪れる理由がないというか、魅力を感じないっていうのが非常に僕は大きな問題だと思ってまして、前にも質問しましたが、運営費はあっても、職員が何か考えて、ああしたい、こうしたいっていう工夫ができないような状況にあると。要はそういう予算がないっていうような。だから、非常にこの、何かもう問題だらけっていうふうに捉えてるといって、ごめんなさい、ちょっと

その辺の今の対応はどのような感じでしょうか。

○委員長（田中藤一郎） 宮垣課長。

○大交流課長（宮垣 均） まず、1つ目の部分ですが、基本的には寄附という、滞在アーティストへの寄附を促したり、それから多くの方々にこの事業のよさ、大切さを分かってもらって寄附を促していくという方向性で現在取組を進めておるところです。

2つ目のWORKATION IN TOYO OKAについてですが、多い月では10件程度、月であります。9月の演劇祭はもちろん多かったんですが、それ以外の月でも、多いときは10件程度がありますが、少ないときはやっぱり5件を切るぐらいの月もありますので、まだまだ認知が全然進んでいないというふうなことがあろうかと思えます。

そういった意味では、夏休みの期間中だったんですが、市内の大学生以下の学生が使うときには無料にさせていただいて、そういったところでの利用促進、周知っていうことを今後続けていきたいなというふうに今考えておまして、例えば冬休み期間ですとか、春休み期間などの学生さんの休みの日なんかも同じような取組を続けさせていただく中で、利用者を増やしていきたいというふうに考えて取り組んでまいるところです。

○委員長（田中藤一郎） 芹澤副委員長さん。

○委員（芹澤 正志） またというか、今後、なかなか非常に大きな課題ですので、またこの辺、よろしくをお願いします。

○委員長（田中藤一郎） 浅田委員、どうぞ。

○委員（浅田 徹） 1点だけ教えてください。

大交流課のほうから説明を受けました、庁内に横断的な情報戦略をとる組織をとることがありました。第1回目の10月というふうなことがあったわけですけども、当初、これ、スタートさせたときの狙いですね。ちょっと開催してみて、今後、非常にこれが短い文章ですけども。どういうものが主に話されて、第1回目ですから、何を目指されるのか、その辺のそこをお願いしたいのと、そこに今組織的に入っておられる庁内の対応されるいろんな

部署があると思いますけども、それについて教えていただきたい。

○委員長（田中藤一郎） 宮垣課長。

○大交流課長（宮垣 均） まず、庁内の連携組織として立ち上げたところに参画していただいている部署ですが、まずは、移住定住係、それからグッドローカル農業推進室、それから地球温暖化対策室、コウノトリ共生課、ジェンダーギャップ推進室、それから学校教育、コミュニケーション教育を進めております部署です、それから大交流課と、それから観光文化戦略室というようなメンバーでまずは立ち上げさせていただいております。

今後なんですけど、まずは、今、市外、市内向けに様々な媒体等を活用して情報発信をそれぞれの部署でやっておりますが、目的、ターゲットはもちろん違うので、一足飛びに全てを整備するっていうことはできませんが、そういったことも含めて、まず、情報発信の在り方をどうしていくのかっていうことをその庁内連携組織の中で戦略体系図を作らせていただいて、今後どういう方向性に進めていくのかっていうことをそろえて、みんな目標をそろえて取り組んでまいるということを考えております。

また、もう一つの目的としては、情報発信をしている担当の係、それから担当者、その一人一人の情報発信力を上げていくっていうことを目的としてこの組織は立ち上げておりますので、もう一つの狙いとして、情報発信力を上げていくということで組織を今後運営してまいりたいと考えております。

○委員長（田中藤一郎） 浅田委員。

○委員（浅田 徹） なかなか将来に向けて、もう大事な、注視したい組織だと思ってます。本当にこういういろんな、どういうふうにとまとめられていくか、また、まとめていいものか、独自性を出すのがなかなか難しいと思います。やはりこれ、物すごく組織としては、特にまだ、どういいますか、そういう形の会議の在り方とか、予算づけとか、意識づけも含めてですけども、もう少しやっぱりその辺力を入れていただいて、こういうのがタッグになって全体をしっかりと、監督じゃないです、いかに一

つに豊岡になるといいますか、やはり個々ばらばらじゃなくて、大事なことだと思いますので、しっかりとやっていただきたいと思います。またこのことについてはいろいろと今後教えていただければなと思っております。以上です。

○委員長（田中藤一郎） それでは、次に行きたいと思います。

次に、コウノトリ共生部、説明をお願いいたします。

柳沢課長。

○農林水産課長（柳沢 和男） 農林水産課の事務概要は、26ページから37ページまで、7つあります。

26ページの有害鳥獣対策事業の推進から28ページの新規就農者の確保・育成事業の推進までを私、柳沢が、そして、30ページの農業ビジョンの推進から32ページのコウノトリ育む農法の推進までを山本参事が、34ページの農業用施設管理及び基盤整備促進事業から36ページの林業の振興までを村田参事が説明をさせていただきます。

では、26ページをご覧ください。有害鳥獣対策事業の推進についてです。

現況と課題、基本方針ですが、野生動物による作物被害が後を絶たず、農業者にとっては大きな問題であります。農業者の生産意欲の減退、あるいは農地の荒廃につながっていきますので、継続した対応が必要です。現在、防除対策と捕獲対策の両輪で対応を進めているところでございます。

今年度の進捗状況ですが、1番目の防除対策については、まず、国、県の支援を受ける鳥獣被害防止総合対策事業による柵の設置を5地区で実施中でございます。金網柵は1地区で1,500メートル、ワイヤメッシュ柵は3地区で7,230メートル、電気柵は1地区で1,480メートルをそれぞれ設置いたします。

市単独の事業による柵の設置は、農会対応分が、防護柵で3地区、捕獲柵で5地区、それぞれ取り組んでいただいております。また、個人への対応としまして、高齢者等生きがい対策事業では、34人が

ご自分の畑等の防除対策を取っていただいております。

ニホンザル被害対策事業では、1人が取り組んでいただいている状況でございます。

2番目の捕獲対策につきましては、市の事業として、狩猟免許取得促進事業、これは取得の補助でございますけれども、これまでに銃猟1名、わな猟2名の合計3名に補助をさせていただいております。

有害捕獲につきましては、9月末現在の捕獲数は、鹿が2,401頭、カワウが309羽という実績です。鹿の捕獲頭数につきましては、昨年と比較して500頭ほど減っている状況でございます。

専任班による捕獲頭数については記載のとおりですので、ご清覧ください。

続きまして、28ページをご覧ください。新規就農者の確保・育成事業の推進、豊岡農業スクールの開校事業、若手農家支援に向けた取組についてです。

現況と課題、基本方針です。農家の減少と農家の高齢化が進む中で、農業を支える人材がますます不足していくことが予測されております。このことから、新規就農者を増やすことが必要だというふうに認識をしております。

特に若い方や市外からの移住者を対象に就農を進めるということを強めておりまして、技術を学ぶ農業スクールの実施、そして、農業を始める際の初期投資費用等の支援を行うこととしております。

進捗状況でございますが、大きな1番の地方創生交付金事業の農業スクールは、今年度入校者3名、昨年からの継続者が1名、計4名が現在研修中でございます。

研修の内容等は記載のとおりです。ご清覧をください。

大きな2番目の新規就農総合支援事業につきましては、国の制度が今年度から変更となっており、(1)のアの農業次世代人材投資資金は、旧制度給付金となりますけれども、13名の方に交付をする予定にしております。

イの新規就農者育成総合対策は、新年度の事業で、(ア)の経営発展支援事業として、機械整備の補助

になります。(イ)の経営開始資金の交付は、資金の交付になりますけれども、3名に行う予定にしております。

ウの経営継承発展支援事業は、経営継承を行う農家を支援するもので、4経営体を予定しております。

(2)の若手農家支援事業は、市単独事業で、農業用機械の導入を補助するものでございます。今年度は1名に対して交付をしております。

私からは以上です。

○委員長(田中藤一郎) 山本参事。

○農林水産課参事(山本 隆之) それでは、引き続き30ページをご覧ください。農業ビジョンの推進についてです。

現況と課題、基本方針ですが、2019年度に策定した農業ビジョンに沿って、10年先を見据えて農業を守る取組を展開することとし、持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業の在り方を豊岡グッドローカル農業と表現して進めることとしております。

概要については、農業ビジョンの取組を具体化し、推進するため、農業ビジョン推進委員会を設置して進めてまいります。さらに、推進委員会の下にプロジェクトチームを設置し、新たな支援施策等について、より具体的に検討してまいります。また、豊岡グッドローカル農業について広く知っていただくための情報発信やイベントを開催してまいります。

これら農業ビジョンの推進に当たりまして、昨年度に引き続き、総務省の地域活性化起業人交流プログラムを活用し、外部人材を1名配置しております。

31ページをご覧ください。進捗状況ですけれども、ビジョンの施策展開について意見交換をいたします農業ビジョン推進委員会を1回開催し、今後の具体的なプロジェクトについて検討をするチーム会議を3回開催しております。

また、情報発信については、SNSを活用し随時行っております。それぞれのフォロワー数については記載のとおりですので、ご清覧をください。

続きまして、32ページをご覧ください。コウノトリ育む農法の推進についてです。

現況と課題、基本方針ですが、コウノトリ育む農法による栽培面積は、2021年度434.6ヘクタールとなり、無農薬栽培のお米は一般米の約2倍の価格で買い取られ、生産者所得の向上につながっております。

概要についてですが、コウノトリ育む農法の取組面積拡大に向けて、モデル農家の経営を分析、見える化することにより、新規取組農家の増加を目指すとともに、専門家より取組面積拡大の課題解決に向けた提言を受けることとしております。

このほか、生産者と共に小学校でのコウノトリ育む農法に関する授業の実施やイベント出店によるコウノトリ育む農法のPRを行ってまいります。

なお、新型コロナウイルスの影響により販促活動は先行きが見通せない状況もあるため、今後の状況を見極めながら進めたいと考えております。

進捗状況ですが、コウノトリ育む農法の取組面積拡大についてのアドバイザー業務について、アグリコメント株式会社と委託契約を締結しております。

また、コウノトリ育む農法による生息環境調査として、特にカエルの生息状況を指標として調査を行うため、NPO法人コウノトリ市民研究所に業務委託を行っております。

普及PRとしましては、コウノトリ育む農法に関する出前授業を市内13小学校で開催するとともに、事業に関わりのある団体様からお声かけをいただきまして、関東や阪神間でのPRを行っております。

私からは以上です。

○委員長（田中藤一郎） 村田参事。

○農林水産課参事（村田 一紀） 引き続き34ページをご覧ください。農業用施設管理及び基盤整備促進事業についてでございます。市が直接管理しています広域基幹農道の維持管理事業と土地改良区など、農業者の皆さんの要望にお応えする事業を進めております。

概要及び進捗状況ですが、事業主体が兵庫県の案件からご説明をさせていただきます。1つ目、北但

地区農道橋耐震化及び長寿命化事業でございます。耐震化事業は、現在進捗率10%になっております。

次に、長寿命化事業といたしまして、蓼川大橋の鋼材部の塗装工事はようやく契約締結を行いまして、工事の着手のただいま準備を進めているところとお聞きをしております。

以降の事業は、事業主体が本市豊岡市となります。2番目の基幹農道トンネルLED化事業でございます。本年度は、出石から但東に通じますはずたんトンネルのトンネル照明のLED化等の更新をすする工事を実施してございまして、現在の進捗率は10%でございます。この事業につきましては、現在コロナ禍によりまして、資材がなかなか入ってこないというような状況があります。引き続き業者とも調整をしまして、早く工事着手ができるように段取りを進めているところでございます。

次に、農免農道安全対策事業でございます。日高町山宮の清滝農免農道の擁壁変状に伴います補強工事をただいま進めております。進捗率はご清覧のとおりでございます。

次に、4番目、内町地区圃場整備事業でございます。これにつきましては、県からの受託をいたしてございまして、市が代わりに工事をしておるものでございます。圃場整備工事は現在10%の進捗でございます。計画策定については、換地計画の策定をいたしてございます。1月下旬の発注とただいま予定をいたしてございます。

続きまして、35ページをお開きください。多面的機能支払交付金の事業でございます。

基本方針では、地域共同によります農地及び農業用施設の保全管理活動といたしまして、共同活動の支援を行うものでございます。また、長寿命化活動支援を行い、老朽化が進む農業用排水路など、長寿命化のための補修、更新を促進するとしております。

概要及び進捗状況をご覧ください。1つ目の共同活動の支援でございます。対象及び単価についてはご清覧のとおりで、123組織への交付額は1億4,140万8,000円となっております。

次に、2番目の施設の長寿命化の支援でございます。同じく対象及び単価はご清覧のとおりで、93組織への交付額は7,066万5,000円ということになっております。現在、交付額に基づきまして、各組織において本年度の実績報告等の作成に当たっていただいているところでございます。

続きまして、36ページをお開きください。林業の振興についてでございます。

概要及び進捗状況をご覧ください。1つ目の市行造林事業につきまして、保育事業20.27ヘクタールを2か所で実施しております。作業道開設は839メートルを2か所で実施中でありまして、現在の進捗率は85%となっております。

2つ目の森林管理100%作戦促進事業につきましては、森林所有者が造林事業を行うものでございまして、間伐や作業道開設に対して、一部を県と市が連携して補助を行うものでございます。ご覧の事業を実施中でありまして、現在の進捗は50%となっております。

続いて、3番目の混交林の事業でございます。高齢の人工林を対象に、林業事業者が事業主体となって、災害に強い森づくりを目指して、3年サイクルを基本に行うものでございます。ご覧の事業量に対して、現在、県への補助金交付申請を行っております。

続いて、4番目、森林環境整備事業でございます。この事業につきましては、主なものといたしまして、豊岡市の森林・林業ビジョン検討委員会の運営を本年2回開催を行いました。10月には検討委員会から市長へビジョン案が手渡されました。現在、年内のパブリックコメントの準備をいたしているところでございます。

また、森林環境保全対策事業の補助金につきましては、緊急度の高い危険木の伐採等、比較的小規模な森林の課題を改善するための補助制度でございまして、実施済み2件、実施中2件となっております。

以上で農林水産課の主な事業は終わりとさせていただきます。

○委員長（田中藤一郎） はい。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 資料は38ページをご覧ください。まず、現況と基本方針です。2005年の放鳥から丸16年が経過しまして、現在、野外のコウノトリの繁殖地は1府7県、個体数は300羽を超え、様々な課題を抱えながらも、野生復帰が進んでいるというふうに考えております。

本市では今年、2013年に策定した生物多様性地域戦略の改定を進めておりますが、生物多様性の保全は、地球温暖化の防止であるとか、防災、こういった対策としても有効に働くことが分かっておりまして、今後も市民との協働による自然環境の整備やコウノトリをシンボルとした地域づくりを進め、人とコウノトリが、自然が共生するまちづくりを進めてまいりたいというふうに考えております。

次に、業務の概要と進捗について説明させていただきます。まず、コウノトリと共に生きるまちづくりの推進についてですが、加陽湿地や戸島湿地などの大型湿地に市内外のボランティアを受け入れ、適正な管理に努めるとともに、休耕田を活用した水田ビオトープ、こちらも進めており、今年度は31か所、約12ヘクタールで契約しております。

次に、39ページをご覧ください。次世代育成及び交流についてですが、市が主催しておりますコウノトリKIDSクラブの運営は今年で11年目に入りました。KIDSクラブの卒業生が中学生になっても、KIDSプラスとして参加してくれるようになっておりまして、少しずつですが、知識を深めて、自分の言葉でコウノトリ野生復帰の取組などを語れる子供たちが増えているというふう実感しているところです。

最後に、生物多様性の推進ですが、市民の自然再生活動や学習支援のほか、アバサンショウオをはじめとする希少種の保護、アメリカザリガニやオオキンケイギクをはじめとする外来種の駆除等を同時に進めております。

説明は以上です。

○委員長（田中藤一郎） 依田課長。

○地籍調査課長（依田 隆司） 資料40ページをご

覧ください。地籍調査事業の推進について説明いたします。

地籍調査は、国土調査法に基づき、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目を調査し、筆界を確認し、面積の測量を行い、成果として地籍図及び地籍簿を作成します。その成果は、土地権利者等の閲覧、国や県の認証を受けた後に法務局へ送付し、既存の登記簿、地図が修正されます。

現状と課題としましては、現在は、国が重点的に推進します防災・減災対策に資する土砂災害等の危険箇所や公共事業連携を図れる区域を中心に調査を推進しています。

特に公共事業連携では、先行地籍調査事業によりまして、山陰近畿自動車道の豊岡北から竹野間におきましては、昨年度に引き続き、江野、竹野町林の現地立会い調査を実施しています。また、豊岡北から城崎間におきましても、昨年度に引き続き、滝及び森津の一部地域の現地立会い調査を実施しています。

これらに加え、今まで北近畿豊岡自動車道関係の調査してました区域に隣接する箇所など、平野部の調査を進めていく方向ですが、国が調査重点箇所とする災害対策に資する区域との合致が難しくなってきました。調査の進め方が課題となっております。

なお、登記修正を完了しました区域は、地籍調査事業支援システムを活用しまして、地籍調査の成果管理と一筆図証明などの発行を行っています。

基本方針としましては、地元住民や地権者の調査に対する理解と協力を得るため、現地立会い調査の開始までに地元説明会や地権者説明会を開催し、各地区ごとに推進委員を組織していただき、円滑な調査事業の推進に努めます。

また、筆界確認等に関しましては、豊富な知見を有し、現地立会いの調査能力の高い土地家屋調査士に業務委託を行うことで、より精度の高い調査への取組を進めます。

概要及び進捗状況ですが、地籍調査は1つの区域を通常3年で完了させます。

1番の進捗率ですが、今年度末で13.6%となる見込みです。

2番の調査図素図作成、図根三角測量ですが、これは主に、現地立会い調査前の準備で、1年目の工程です。全区域作業中です。

3番の現地立会い調査、詳細測量ですが、これは2年目の工程です。筆界確認の現地立会いは全区域終了し、現在は測量を実施しています。

4番の地籍簿案、地籍図案作成、閲覧ですが、これは3年目の工程です。全区域、地籍簿、地籍図案は作成済みで、10月に閲覧を終了し、国や県への認証請求に向け、申請書類を作成中です。

5番の地籍調査の成果管理ですが、地籍調査事務支援システムによりまして、調査を完了しました箇所を順次登録し、管理しています。

説明は以上です。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

ご質問等はございませんか。よろしいですか。
須山委員、どうぞ。

○委員（須山 泰一） 豊岡農業スクール、21年度28名ですけど、21年度、入校生1名、22年度、入校生が3名、計4名ということで、農業の後継者が、平均年齢、現在71歳とか、上に書いてますけど、後を継ぐ若い人がやはり増えるように努力されていると思いますが、この豊岡農業スクールっていうのは、大体人数も、昨年1名、今年3名と、こういう感じなんですか。

ここに地域おこし協力隊の方とかもこういうところに関わるんでしょうか。お聞きします。

○委員長（田中藤一郎） 柳沢課長。

○農林水産課長（柳沢 和男） 農業スクールにつきましては、2013年から開所をさせていただきまして、今年で10年目ということでございます。毎年3名で10年間で30名の新規就農者を育てたいということで来ております。

昨年までに卒業されて、農業のほうに進んでいただいた方が23人ということで、卒業生全ての方が農業に従事していただいているというような状況でございます。現在の4名が順調に卒業して、就農

していただきますと27名ということになります。

また、新年度の予算でご提案をさせていただくように進めたいというふうに思っておりますけれども、第2期として、次の10年間のことも考えていきたいというふうに思っております。その中では、年間3人としていましたものを何とか5名というふうな形で増やして、10年間50名の目標を立ててやっていきたいというふうなことを今思っております。

あと、地域おこし協力隊の関係でございますけれども、地域おこし協力隊が農業分野で活躍をさせていただいているというのが今3名ございます。その方とスクールの関係はイコールではございませんけれども、農業分野で今活躍をさせていただいている地域おこし協力隊は、農業自体で就農するというふうなことよりも、農業と何かを併せて自分らでやりたいというようなところの活動を主に支援しているというふうな状況でございます。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 須山委員、よろしいですか。

○委員（須山 泰一） はい。ありがとうございます。いいです。

○委員長（田中藤一郎） それでは、時間が押しておりますので、続いて、都市整備部の説明を簡潔にお願いします。

富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課からは、2件の事務概要についてご説明させていただきます。

まず、41ページをご覧ください。市道整備の推進です。市道につきましては、豊岡市道路整備計画に基づきまして、幹線道路を中心に整備を行っております。基本的には、継続路線については早期完了目指して事業を進めてまいっております。

概要及び進捗状況です。まず、1番の市道福田宮井線、栃江橋です。こちらにつきましては、奈佐川に架かります橋梁で、既に橋梁部は完成しており、現在、整備工事が実施中ですが、今後、右岸側の県道辻福田線の交差点改良等の工事を発注、実施予定となっております。完成につきましては、来年の夏頃になると考えております。その後、古い橋の撤去

に着手する予定です。

なお、旧道から新しい道路への切替えが必要なことから、去る11月の5日に、橋梁部を含めて、部分的には供用をしております。

続きまして、2番目の市道上野線、上野橋の橋梁整備です。こちらは、出石川に架かる橋梁でして、橋台2基、それから橋脚2基は全て完成をしております。今年度、現在は橋梁の上部工の桁製作を発注しております。また、左岸側の県道に至るとり合い道路ボックスカルバート1基についても工事発注済みで、今後、現場着手予定となっております。

3番目の市道池上日吉線道路改良事業です。こちらは、日高町の鶴岡から松岡の区間です。排水路に蓋をして歩道を整備する工事ですが、歩道部の整備は全て完成をしております。これから舗装工事を行いまして、今年度中には事業完成予定となっております。

4番の市道風早線道路改良工事です。こちらは、城崎町楽々浦の工事です。こちら継続して道路改良工事を行っております新城崎大橋の開通が2024年度とお聞きしておりますので、そこまでは完成をさせたいというふうに考えております。

続きまして、5番の市道片鍋一日市線道路改良事業です。こちらは新規事業です。3年前に小学生の児童が横断歩道を塞ぐように渋滞していた車列の間を抜けて道を渡ろうとして、対向車にはねられて死亡するという痛ましい事故が発生した箇所です。

こちらにつきましては、水路を暗渠構造にして右折レーンを設置するなどして、渋滞を解消しようとする事業です。今年度は、測量、地質調査、道路脇の詳細設計を現在実施中です。

次に、6番の市道藤井中森線道路改良事業です。こちら新規事業で、日高町藤井の地区で行っております。こちら今年度につきましては、測量、それから詳細設計ということで現在業務を実施中です。

続きまして、42ページをご覧ください。橋梁長寿命化事業の推進です。現在、豊岡市では、市道の橋梁ということで1,248橋の橋を管理しており

ます。その中には老朽橋梁も多く、安全性、信頼性の確保と効率的な維持管理が求められております。これまでは、損傷が大きくなってから補修であったり、架け替えを行っていましたが、各橋梁の重要性や損傷状況に応じた計画的な早めの補修、架け替えを実施することとして、豊岡市橋梁長寿命化修繕計画を策定して、これに基づいて長寿命化事業を推進しております。

概要及び進捗状況ですが、補修工事ですが、五条大橋ほか6橋、橋梁補修工事ということで、現在、施工中は3橋、それから、入札準備中2橋としておりますが、この2橋とも昨日入札が行われまして、業者が決まっております。それから、設計中が2橋ということになっております。

業務委託につきましては、大門橋ほか2橋、橋梁補修設計ということで、次年度以降に橋梁補修工事をするための設計を3橋で実施中です。

それから、道路橋定期点検ということで、5年に一度の法定点検が義務づけられておりますので、今年度につきましては、現在237橋の橋梁の点検を実施中です。

建設課からは以上です。

○委員長（田中藤一郎） 簡潔に。

○都市整備課長（久田 渉） 43ページをご覧ください。市が管理をしております公園につきましては、優先順位を定めまして、予算の範囲内で補修、修繕を行っております。

特に都市公園につきましては、2019年度の公園施設長寿命化計画を策定し、社会資本整備総合交付金事業の財源などを活用しまして、補助事業により公園施設の更新を実施しております。

概要及び進捗状況です。都市公園のうち、防災、安全対策を目的とした社会資本整備総合交付金事業では、対象面積が2ヘクタール以上の公園で、4公園あり、遊具やフェンス等の公園施設が対象となっております。

なお、2ヘクタール未満の公園では、13公園ありまして、遊具のみの更新が対象となります。

2019年度から2023年度までの5か年を

計画期間としまして、補助率は50%です。

本年度は、2021年度からの繰越事業が4件、それから現年事業が1件、合わせまして5件の遊具や公園施設を更新しております。

具体的な進捗状況ですが、社会資本整備総合交付金事業の繰越工事、43ページの下段から4件、次のページにあります。1つ目の中央公園中央駐車場舗装工事及び2つ目の日高児童公園遊具更新工事につきましては、既に工事を完了しております。

それから、44ページの3つ目の中央公園照明施設更新詳細設計業務と、4つ目の同施設の更新工事は、1つ目の中央公園中央駐車場舗装工事の最終精算額の残予算によって追加更新工事を行うもので、既に設計業務は完了しておりまして、12月の入札を行い、3月末の工事完了を予定しております。

5つ目の工事、中央公園園路舗装工事につきましても、既に工事を完了しております。

説明は以上です。

○委員長（田中藤一郎） 山本課長。

○建築住宅課長（山本 正明） よろしくお願ひします。

それでは、建築住宅課から4項目上げさせていただいております。

まず、45ページをご覧くださいと思います。4項目あります。基本的、現状、課題、基本方針、概要につきましては省略させていただきまして、進捗状況を中心にご説明させていただきます。ご清聴いただければと思います。

まず、市営住宅の管理についてでございます。40団地、970戸の市営住宅管理をしております。

進捗状況ですけれども、1の市営住宅の維持管理についてですけれども、ここに書いてますとおり、公営住宅の長寿命化計画、これに基づきます今森住宅2号棟、もしくは塩津住宅3号棟のエレベーター改修、その工事、あと、下段にあります（2）の円山住宅、福住住宅の電気温水器更新工事、あと、栄町の住宅の危険箇所工事、もろもろ、主な工事に取り組んでおります。それぞれ記載のとおり、現在進行中と、もしくは一部完了済みという状況で推移しとる

というものでございます。

あと、2の住宅使用料等の滞納対策についてですが、(1)ですけれども、本人、連帯保証人等に対しての催告しましても支払いがない場合、そういった場合に、裁判所に支払い督促の申立て、即決和解、少額訴訟なども行っております。今年度、現時点におきましては、支払い督促が1件、あと即決和解が1件の実施しておるという状況でございます。また、年度末に向けては増えるかもという状況でございます。

46ページをご覧くださいと思います。

(2)の収納率の目標につきましては、前年度までの分としましては、市営住宅使用料現年度につきましては、収納率5年連続で100パー、あと、駐車場使用料、共益費につきましてはの現年度分につきましては、9年連続で100パーという収納実績、みんな頑張っております。今年度も同様に、さらにこの100%に向けて現在取り組んでおりますという状況でございます。

あと、3の市営住宅の用途廃止に向けた取組につきましては、現在記載の一本松の住宅と但東の出合市場住宅、それらの入居者を対象に移転事業を進めております。表に書いてますとおり、2021年度からの累計ですけれども、記載してあります一本松住宅で対象18戸のうち13戸、出合市場住宅では対象4戸のうち2戸が移転済みという状況となっております。この状況につきましては、昨年度から原則3か年、最長でも5か年で完結するという方向で随時進めておるというものでございます。

あと、4の市営住宅の空き室活用対策についてでございますけれども、記載しておりますとおり、定住促進事業、お試し住宅っていうような形で、お試し居住ですね、での取組の5つの住宅がございます。そして、その下に栄町住宅の学生の活用というのがありますけど、それぞれ書いておりますけれども、ごめんなさい、定住促進事業につきましては、17戸のうち、トータルとしまして5つの住宅、17戸のうち6戸が現状で入居されておると。あと、学生につきましては、16戸のうち9戸が現在入居されて

おるという状況でございます。

あと、5の市営住宅指定管理者制度の導入検討につきましてですけれども、今年3月にサウンディング型市場調査実施しまして、いろんな意見、提案、あとは市場性の有無、そういったものを調査を行いまして、現在、コストの試算だとか、執行体制の検討とか、あと数値化できないようなサービス面、そういった施策面でのメリット、デメリット、こういったものを現在も検討中ということで、導入の可能性を検討してる状況でございます。

47ページをご覧ください。民間住宅耐震化の促進についてです。基本的に無料で耐震診断をしていただいて、その結果を受けて、必要な耐震改修工事をしていただくと。これらの支援を行って、耐震化を向上させようとするものでございます。

件数だけ報告させていただきます。簡易耐震診断につきましては、現時点で27名の方、申請をしていただいております。そして、その診断の結果を受けまして、2のところに書いております住宅耐震改修工事の(1)の豊岡市住まいの耐震化促進事業補助金、これ、国県補助との随伴の分ですけど、アの全体補強型計画策定で2名、そして、その下、イで全体補強型の耐震改修工事補助、これが全体改修となります、これが3名で、ウの部分型ということで、部分補強になります、これにつきましては申請者がいないと。そして、その下、エの防災ベッドにつきましても申請者はございません。

そして、その下、豊岡市住宅耐震リフォーム工事補助金、これが市単で行ってる分でございます。アの居室等補強型耐震改修工事費補助、これは診断を受けて、居室等、居間や寝室等の部屋を重点的にできる耐震と、改修するもので、記載しております。それと、耐震とリフォーム、セットで工事をされる方が大半ですので、リフォーム部分含めて、補助対象として8名の方が申請されておるという状況でございます。

48ページのイのところに書いてあります耐震化促進事業加算型リフォーム工事補助、これにつきましては、先ほどの2の(1)の国県補助の適用しとる全

体補強とか、そちらの耐震改修工事、こちらにリフォームに対する支援がございませんので、この加算型という形でリフォームを補助対象にすることによって、インセンティブ、動機づけになればという形で加算という形で事業を実施しているものがございます。これが3名ということです。

続きまして、49ページご覧ください。老朽危険空き家対策の推進です。

進捗状況についてですけれども、1点目の空家等対策協議会、協議、運営ですけれども、記載のとおり3回予定しておりますけれども、文書協議を1回、あと、今後12月、3月に2回程度協議会を予定をしているというものです。

あと、2の豊岡市空家等対策計画の改定ですけど、現在の計画が2022年度、今年度が最終年ということでございますので、現在、2023年度からの10年分の次期計画、これ、業務委託も行いながら、現在改定を行っております。この改定作業につきましては、年度当初に豊岡市全区への老朽危険空き家等の部分に関するアンケートを行いまして、その調査結果も基づきまして、資料にはないですけれども、ごめんなさい、約139件、新たな物件の報告をいただきましたので、これらは現地調査を行って、計画なんかにも反映させていくという取組を現在進めておるところでございます。

あと、3の老朽危険空き家の除却についてです。特定空家等認定物件の補助金を出しての除却ですけれども、4件予定でしたけれども、現在3件がほぼ現場が完了しとるという状況に今現在3件しておる最中というところでございます。

4の代執行につきましては、1件予定しておりますけれども、ちょっと現時点では実施は未定という状況でございます。

続きまして、50ページから51ページご覧いただきたいと思います。土砂災害特別警戒区域内住宅等の対策ということで、豊岡市につきましては、土砂災害特別警戒区域の指定、これが現在970か所ございます。これら区域内にある現在物件建てている住宅等の補助メニューでありますけれども、制度が

できましたら、1の豊岡市住宅土砂災害対策支援事業の(1)の移転費用、その下の2の除却費用、移転と除却、そして、この区域内にあります住宅、ごめんなさい、移転事業ですね。それと、2の豊岡市土砂災害対策防護壁等整備支援事業、これらも住宅、ホテル、旅館、移転はしないけれども、建物を守るための防護壁の設置や安全工事の改修、これらの補助制度を設けておるんですけども、記載にもしておりますけれども、申請はゼロという状況で、今現在、いうものがございます。

詳細については、資料をご覧くださいと思います。

建築住宅課分は以上でございます。

○委員長(田中藤一郎) 説明は終わりました。

質問等はございませんか。

ないようですので、この際、当局の皆さんのほうから特にご発言等はございませんか。よろしいですか。

ないようでしたら、当局の皆さんは退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

ちょっと時間超えたと思います。すみません。

午前11時05分休憩

午前11時11分再開

○委員長(田中藤一郎) 休憩前に引き続き委員会を再開します。

それでは、後半の部署に入りたいと思います。

3番の自己紹介です。

改めまして、委員長を拝命しました田中藤一郎です。一年間いろいろとお世話になると思います。また、非常にこの委員会、重量級の案件もたくさんありますけれども、皆さんと共にしっかりとやっていきたいなど。そして、私のモットーでございます、明るく楽しく真剣にというふうなことで、この1年間を頑張っていきたいというふうに思っておりますので、皆様方のご協力のほう、改めてよろしくお願ひします。よろしくお願ひいたします。

それでは、各委員の皆さんにも自己紹介していただきたいと思います。

では、副委員長。

○委員（芹澤 正志） 皆さん、こんにちは。このたび副委員長を拝命いたしました芹澤でございます。かねてからこちらの委員会にぜひと思ってましたので、しっかりやらさせていただきたいと思ひますし、委員長をしっかりと支えて頑張りたいたいと思ひますので、何とぞよろしくお願いいたします。

○委員（浅田 徹） 浅田でございます。この1年よろしくお願いいたします。

○委員（前田 敦司） 前田です。よろしくお願いします。

○委員（太田 智博） 太田です。よろしくお願いします。

○委員（松井 正志） 松井正志です。どうぞよろしくお願い致します。

○委員（須山 泰一） こんにちは。須山泰一です。どうぞよろしくお願い致します。

○委員（前野 文孝） 前野です。どうぞよろしくお願い致します。

○委員長（田中藤一郎） それでは、各振興局から、名簿順でお願いいたします。

○城崎振興局長（植田 教夫） 城崎振興局の植田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

あと、今日2人なんですけども、1人、山田温泉課長のほうがちょっと公務のため欠席させていただいてます。申し訳ありませんけど、よろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） 城崎振興局地域振興課参事の橋本です。よろしくお願いいたします。

○竹野振興局長（石田 敦史） 竹野振興局の石田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹野振興局地域振興課長（平尾 喜彦） 竹野振興局地域振興課長の平尾でございます。よろしくお願い致します。

○日高振興局長（小谷 士郎） 日高振興局、小谷士郎です。よろしくお願い致します。

○日高振興局地域振興課参事（吉田 政明） 同じく日高振興局地域振興課の吉田と申します。よろしく

お願いします。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） 同じく日高振興局の地域振興課参事の上野です。どうぞよろしくお願い致します。

○出石振興局長（村上 忠夫） 出石振興局長の村上です。どうぞよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 同じく出石振興局地域振興課参事の川崎です。よろしくお願い致します。

○但東振興局長（大岸 和義） 但東振興局、大岸和義と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） 但東振興局地域振興課参事の小川と申します。よろしくお願いいたします。

○上下水道部長（河本 行正） 上下水道部長の河本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○水道課長（谷垣 康広） 上下水道部水道課、谷垣です。よろしくお願い致します。

○水道課参事（井垣 敬司） 水道課参事の井垣と申します。どうぞよろしくお願い致します。

○下水道課長（榎本 啓一） 下水道課、榎本です。よろしくお願い致します。

○下水道課参事（堀田 政司） 下水道課参事の堀田と申します。どうぞよろしくお願い致します。

○農業委員会事務局長（安藤 洋一） 失礼します。農業委員会事務局の安藤と申します。よろしくお願い致します。

○委員長（田中藤一郎） 最後に、事務局。

○事務局主査（伊藤八千代） すみません、事務局の伊藤です。よろしくお願い致します。

○委員長（田中藤一郎） ありがとうございます。それでは、次第に戻りまして、次第4の協議事項に入ります。

（1）委員会所管事項の事務概要に入ります。

進め方としましては、まず、各振興局から説明していただいた後、振興局一括して質疑を行います。その後、上下水道部及び農業委員会事務局の順に、部局ごとに説明、質疑を行いたいと思ひます。

なお、委員の皆さん、当局の皆さん、質疑応答に

当たりましては、くれぐれも要点を押さえて、簡潔明瞭に行うなど、スムーズな議事進行に格別のご協力をお願いします。

また、委員会での発言は、委員長の指名の後、マイクを使用して発言者の名を名のってから行っていただきますよう、ご協力をお願いします。

それでは、まず、各振興局の説明を城崎振興局から順にお願いをいたします。

橋本参事。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） まず、52ページをご覧ください。城崎振興局の取組についてご説明いたします。

城崎温泉では、夏休み、またカニの漁期でにぎわう繁忙期と、春、秋の閑散期の観光客の入り込み数の差を縮小すること、また、城崎の伝統工芸である麦わら細工の後継者の創出、育成などが課題となっております。

このため、振興局プロジェクトとしまして、1つ目に、夏の風物詩として定着し、平日の観光客増加に寄与している城崎温泉夢花火事業への支援を継続しています。本年度も7月28日から8月26日まで、平日14日間に花火が打ち上げられました。この経費に対する補助金ももう交付をしております。

2つ目に、樹木の老化等により樹勢が衰え、倒木など危険性のある柳や桜につきまして、剪定、植え替え、土壌改良などを実施し、大谿川の桜並木などの温泉街の美しい景観の形成に必要な樹木の健全な育成を図っております。現在、造園業者と契約を終え、この後、業務を進めていくこととしております。

3つ目ですが、大谿川に架かる4つの太鼓橋やパラペットの表面に剥離や亀裂が発生しているため、周囲の景観と調和をした美装化工事を引き続き実施しています。大谿橋とパラペットの一部はもう既に改修を終えております。本年度は、パラペットの残った分につきまして行っております。これも現在、工事会社と契約を交わし、この後、改修を行っていく予定となっております。

4つ目ですが、市内の児童を対象とし、ふるさと学習の教材にも掲載されている麦わら細工について、歴史学習と制作体験を実施しています。今年は、市内の小学校5、6年生を対象として募集した結果、6校9クラスの申込みがありました。これまで、10月末までに3校4クラスで実施を終えております。

最後、5つ目になりますが、若者会議としまして、地域づくりに対する若者世代の意見、提言を聞く機会を設けるとしまして、城崎では、城崎、港地区の現状、資源や課題など、若者の目線で語っていただきまして、自分たちが活動できそうな取組やアイデアを出し、企画を検討していくということで、8月30日に1回目、10月4日に第2回目、そして、先日の様子が11月の9日に第3回目のワークショップを終えておりまして、現在はその整理を行っている状況ということになります。

城崎からは以上です。

○委員長（田中藤一郎） 平尾課長。

○竹野振興局地域振興課長（平尾 喜彦） 竹野振興局の取組について説明させていただきます。

54ページをご覧ください。竹野地域では、人口減少の緩和と地域振興を図るために、今年度、地域振興局プロジェクト事業として、主に3事業に取り組んでおります。

それでは、それぞれの事業について、概要と進捗状況を説明いたします。

なお、進捗状況は、次のページに記載しておりますが、説明については、これらを含めた説明とさせていただきます。

まず、振興局プロジェクト事業の1つ目、仲田光成作品洗浄事業で、仲田氏より市に寄贈いただいた各作品156点のうち、早期に表装を行った55点において、染み、カビが発生しているため洗浄を行うものです。事業費は、洗浄業務委託料533万円で、委託期間は、7月に発注しまして、12月に完了予定です。現在、進捗率は90%です。

2つ目の竹野焼杉板景観保全事業は、竹野地域の景観保全を推進するため、家屋の外壁に焼き杉板を

使用された場合、材料費の一部を補助する事業で、4月から受付を開始し、現在6件の申請を受けております。交付決定額63万5,000円で、事業完了2件、残り4件は現在施工中で、2023年度3月完了予定です。

3つ目の若者会議の開催は、竹野地域にお住まいの若者、子育て世代の皆さんによる将来の豊岡のあるべき姿や理想を共有し、その実現に向けての方法を共に探り、実行する地域の実現を目指すことを目的に討論いただいております。7月から開催し、現在3回実施しております。

なお、次回、4回目の若者会議の開催は、11月29日火曜日に予定しております。

説明は以上です。

○委員長（田中藤一郎） 吉田参事。

○日高振興局地域振興課参事（吉田 政明） 5ページをご覧ください。日高振興局の取組のうち、日高振興局プロジェクト事業等の進捗状況について説明します。

日高振興局プロジェクト事業の1つ目、日高地域づくり運営事業です。いわゆる日高振興局版の若者会議です。各種団体の会合に職員が参加し、まちづくりについての意見交換を行うといったもので、これまで4回実施しました。本年度も引き続き実施する予定です。

2つ目の日高地域の先輩に学ぶ事業です。日高東中学校2年生対象の事業は12月2日に、また、1年生対象の事業は来年3月1日に開催する予定です。日高西中学校の事業は来年1月以降に開催する予定です、現在調整しています。

次に、観光事業の1つ目、道の駅「神鍋高原」整備事業です。道の駅の機能の在り方のほか、運営体制の見直しも含めた道の駅の最適化と長寿命化を図る整備運営計画を策定し、その計画に基づき、改修工事を実施するというものです。現在、芸術文化観光専門職大学の支援により、計画策定のための準備作業を行っております。

具体的には、道の駅に求める機能や役割について関係者との意見交換会と、その内容を踏まえ、10

月26日から12月7日までの間でテーマを3つに絞り、1回から3回シリーズで道の駅を考えるワークショップを開催しています。今後はこの内容を整理し、計画策定に取りかかる予定です。

2つ目の観光施設管理です。道の駅「神鍋高原」の受水槽配水管用ポンプ交換工事は、9月に完了しています。神鍋温泉ゆとろぎ水風呂及びジェット風呂ポンプ交換工事は、8月に完了しています。神鍋山頂公園登山口公衆便所及び北神鍋公衆便所の解体工事は、10月に完了しています。

3つ目の日高夏まつり事業です。7月24日に日高夏まつりが開催され、実行委員会に100万円補助支援しました。3年ぶりの祭りの開催に、地元の方をはじめ、多くの方が花火等を楽しまれました。

最後に、地方創生臨時交付金事業の神鍋地域自然学校受入れ支援事業です。神鍋高原で市内小学校が実施する自然学校を受け入れるための経費の一部について、観光協会を通じて、事業者に補助支援するというもので、5月から7月までに市内小学校11校が実施され、344人の児童を受け入れることができました。

説明は以上です。

○委員長（田中藤一郎） 川崎参事。

○出石振興局地域振興課参事（川崎 隆） 出石振興局からは、58ページの出石振興局の取組についてご説明いたします。

これからの時代を担う若者の意見、提言を取り入れながら、地域の意向を踏まえた城下町出石としての町並みと風情を生かした魅力のあるまちづくりを進めることとしております。

概要につきまして、進捗状況を説明いたします。1つ目の、出石お城まつり事業補助金は、11月3日に第50回出石お城まつりが3年ぶりに開催されました。例年の子供大名行列、大人大名行列槍振りに加え、今回は姉妹都市長野県上田市から、真田陣太鼓、真田鉄砲隊の演舞の披露などを行われ、約2万3,000人の来場者でにぎわいました。今後は、実行委員からの実績報告を受け、精算を行います。

2つ目の、若者会議の開催につきましては、まちづくりに対する若者自体の意見、提言を聞く機会を設けるため、若者会議を開催しています。これまで商工会青年部が実施する事業など、若者の集まる場へ参加しながら若者の声を集める取組を行ってきました。11月17日、本日の夜ですが、出石庁舎で若者に集まっていただき、意見を聞くこととしています。また、11月24日には、市長のふれあいトークを活用して、若者から直接市長へ意見を伝えていただくこととしております。

続きまして、3つ目の観光施設管理事業費は、予定していました大手前トイレ、西の丸駐車場トイレ、鉄砲駐車場トイレの改修工事です。11月15日に床の洗浄作業を行いまして、完了をしました。

出石振興局からは以上です。

○委員長（田中藤一郎） 小川参事。

○但東振興局地域振興課参事（小川 一昭） 資料60ページをご覧ください。但東振興局の取組についてご説明いたします。

概要に対する進捗状況でご説明いたします。但東振興局プロジェクト事業では、地域コミュニティ組織と協働して、但東の住まいや生活などの暮らしの情報を発信し、移住定住を促進するための事業を行っています。

1つ目は、地域との協働による空き家活用促進です。移住者を対象とした空き家の活用について、但東地域においては、現在31戸、内訳は、成約済み19戸、未成約12戸を市のホームページ、飛んでるローカル豊岡で情報発信し、移住の促進を図っているところです。引き続き地域コミュニティ組織等との協働による空き家の活用促進を進めてまいります。

2つ目は、移住促進住宅の運営事業です。若者夫婦の移住により子供を増やすため、移住促進、住宅の維持管理を行っています。但東地域では、現在10戸の住宅を管理しており、現在は満室です。移住促進住宅の入居者は40人で、うち中学生以下は18人です。この方たちには但東地域に定住していただきたいと思っております。

3つ目は、若者会議です。若者たちが気楽に寄り合える場づくりを行っています。結果的には、まちの将来や希望も語り合える場へ成長できるよう目指しております。企画運営につきましては、地域おこし協力隊への事業委託しており、4回実施いたしました。年度内に5回以上の開催を予定しています。

次のページをご覧ください。4つ目の教育民泊推進事業です。農業や農村の暮らしを体験するいのちの輝き体験教育旅行は、地域の活性を図ることを目的に実施しています。新型コロナウイルス感染症の影響で、現在、神戸市の中学生の受入れはありません。ほかには、交流民泊に取り組む自治体及び事業者等の広域ネットワークに参加し、民泊の現状や課題、展開手法等について情報交換を行っております。説明は以上です。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

質問等はありませんか。よろしいですか。

それでは、次に、上下水道部の説明をお願いします。

井垣参事。

○水道課参事（井垣 敬司） 水道課からは、2項目ありますが、水道施設の整備を、私、井垣が、水道料金の改定に係る施行時期等の再検討を谷垣課長から説明させていただきます。よろしくお願ひします。

それでは、62、63ページをご覧くださいのと併せまして、先ほど別途お配りさせていただきました資料もご覧ください。

水道施設の整備です。現状と課題、基本方針については変更ありません。

概要及び進捗状況をご覧ください。大きい1、大見塚受水池・配水池改修事業です。

城崎小学校に隣接する山に位置しています老朽化した受水池・配水池の改修を行い、耐震性を確保するものです。今年度は、敷地造成を実施中で、進捗率は20%です。

2、岩中浄水場改築工事です。

日高地域の市街地などへ水道水を供給する施設で、老朽化した浄水施設を更新し、耐震性を確保す

るものです。新しい浄水池への施設を切り替えるめどが立ちましたので、今年度、これから古い浄水池を撤去しようとするものです。進捗は11月入札予定としておりますけれども、昨日、入札が執行され、契約を締結できる運びとなりました。

3、佐野浄水場膜ろ過設備更新事業です。

膜ろ過設備が経年劣化により機能低下を来してきています。膜ろ過装置を更新し、安定した水道水の供給を図るためのもので、進捗率は2%です。

4、浄水場等設備更新事業は、各水道施設の老朽化した電気、機械設備やポンプなどの更新を行うものです。進捗状況は、対象15件のうち完成1件、施工中7件、設計完了1件、設計中6件です。個別の進捗はご覧のとおりです。

5、老朽管更新事業は、耐用年数を超過した路線で、古い箇所から順に、また、漏水事故が散発される路線を優先して、計画的に更新を行っています。対象となる19件のうち、完了7件、施工中5件、設計完了2件、設計中5件です。同じく個別の進捗はご覧のとおりです。

ここからの3事業につきましては、国県関連事業で、例年のとおり、その進捗状況に影響を受け、大きく変更となります。ご理解いただきますようお願いいたします。

6、城崎・港給水区配水施設整備事業は、この給水区へ安定した水道水の供給を確保するため、国、県の事業に併せて送水管を布設するものです。2件の工事のうち1件の進捗率は10%です。残る1件は12月に発注したいと考えているところです。

7、城崎大橋架け替え関連事業です。県が実施しています城崎大橋の架け替え事業に併せて、配水管を移設、新設するものです。左岸県道改良部分については、現在、調整中でございます。右岸の道路部分につきましては、発注に向け調整を行っています。

8、豊岡インター線道路改良関連事業です。県道豊岡インター線道路改良工事により、公立豊岡病院へのアプローチ部分が付け替えとなるため、配水管の移設を行うものです。引き続き調整中ですが、県からは今年度の施工が困難になるかもしれない

とお聞きしております。

私からは以上です。

○委員長（田中藤一郎） 谷垣課長。

○水道課長（谷垣 康広） 続きまして、64ページをご覧ください。私からは、水道料金改定に係る施行期日の再検討について説明させていただきます。現状と課題、基本方針、概要につきましては、資料に掲載しております。これまでにお示しさせていただいた内容となっております。

進捗状況でございます。6月議会で、2023年4月1日からの改定とする条例改定案を提案させていただきました。可決いただきました。来年の4月の改定までの期間、複数の媒体を用いまして周知を行い、スムーズな移行に努めてまいっております。9月議会での答弁にもありまして、検針時に、検針票のお知らせ票と併せまして、9月中旬から約2か月間で3万8,000の水栓にチラシのポスティングを行いました。9月にユーチューブに音声付きのライドショー動画をアップしまして、あわせて、市ホームページ、市公式のツイッターやLINEでもお知らせの掲載をいたしております。市広報11月号では、チラシ、ホームページ、ユーチューブでお知らせしている旨の記事を掲載しているところでございます。

今後2月前後、4月以降の検針時に、再度ポスティングを行いまして、市広報3月号でも料金改定のお知らせを掲載する予定としております。各種媒体を用いながら、引き続き周知に努めてまいりたいと思います。

水道課からは以上でございます。

○委員長（田中藤一郎） 榎本課長。

○下水道課長（榎本 啓一） 65ページをご覧ください。下水道整備事業、2022年度事業の概要及び進捗状況についての説明をさせていただきます。

1番の統廃合事業は、処理区を統廃合することにより、施設の効率化を図るもので、廃止する浄化センターはポンプ場に改造いたしまして、機器を大幅に削減するとともに、汚水調整池として有効活用するための工事と統合先までの管渠工事及び舗装復

旧工事を行っております。

処理区ごとの進捗率はゼロから100%で、そのうち五荘大浜、三方、港処理区については、今年度、国へ補助金の要望をしたものの、補助金がつかなかったため、現在、県を通して国へ追加要望を行っているところです。また、寺坂処理区につきましては、昨日、入札があり、但東、水石につきましても、道路管理者等関係機関との調整がつき次第、順次、工事を発注する予定です。

次に、2番の長寿命化事業は、統廃合事業完了後にも残ります浄化センターについて、機器の更新等を適切な時期に行って、施設の長寿命化を図るものです。長寿命化工事につきましても、統廃合事業同様に、まだ補助金のついてないものもありますが、それ以外につきましては、(1)番の工事では、進捗率5から10%、(2)番の須井地区の実施設計は30%、次のページで、(3)番の次期長寿命化の5か年計画を策定するためのストックマネジメント実施方針策定業務は20%となっております。

次に、3番の雨水幹線整備工事の福田雨水幹線整備工事は、進捗率10%となっております。

次のページをご覧ください。先ほど説明させていただいた事業の箇所図となっております。凡例で示してありますように、統廃合事業は青色囲い、長寿命化事業は赤色囲い、雨水幹線工事を含む道路改良工事に伴う下水道管の移設工事等をオレンジ色囲いで表示しておりますので、ご清覧のほどよろしくお願ひします。

説明は以上です。

○委員長(田中藤一郎) 説明は終わりました。

質問等はありませんか。よろしいですか。

それでは、続いて、農業委員会事務局の説明をお願いします。

安藤事務局長。

○農業委員会事務局長(安藤 洋一) 68ページをご覧ください。農地利用最適化推進委員の推進についてご説明いたします。

概要と進捗状況について改めてご説明いたします。69ページをご覧ください。

1つ目として、農地法に基づく許認可事務について説明いたします。

農業委員会では毎月1回、農業委員会総会を開催し、農地法等に基づく農地の権利設定の許可や転用等に係る意見の進達等を行っております。なお、本年度10月末現在での申請、許可等の件数は、おおむね前年並みとなっております。

2つ目です。遊休農地の発生防止、解消についてでございます。

農業委員、農地利用最適化推進委員の活動を円滑に進めるため、おおむね旧市町単位で部会を編成し、日頃から違反転用等を含めた農地のパトロール、耕作者の技能等による遊休農地予備軍と新たな耕作者をつなぐ活動を実施しております。7月には事務局も加わり、市内全域で農地利用状況調査、遊休農地パトロールでございますが、を実施し、当該結果を踏まえ、利用意向調査及び非農地判断を実施することとしております。

3つ目です。担い手への農地利用の集積、集約化及び新規参入の促進についてでございます。

担い手への農地の集積、新規参入の促進のための活動を実施しております。具体的には、新規就農者が経営規模を拡大するに当たり、農地の確保のための調整を地元の推進委員を中心に実施した事例がございます。

4つ目の農地利用最適化推進委員の活動についてでございます。

推進委員については、農業委員と連携して対応する体制を構築するため、地域部会に参画し、農業委員と一緒に地域課題への対応や情報共有、農地の利用状況といった活動の円滑化を進めております。

5つ目の新規委員選出スケジュールについて説明いたします。

今年度10月3日から11月2日の一月間、募集を行いました。残念ながら、農業委員、農地利用最適化推進委員とも定数を満たさなかったことから、1か月間、募集期間を延長しております。延長した直後でございますが、先週末までに3名の、そ

れぞれ農業委員、推進委員の推薦申込書を受領いたしましたして、あと農業委員につきましては、定数19名に対して、あと1人、それから、農地利用最適化推進委員の25人に対して、あとお二人の推薦、応募を待っているというような状況でございます。

説明のほうは以上でございます。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

質問等はございませんか。ないですね。ほかにありませんね。

それでは、ないようですので、事務概要につきましては、この程度にとどめておきたいと思います。

この際、当局の皆さんから特にご発言はありませんか。大丈夫ですか。

ないようでしたら、当局職員の方につきましては、退席していただいて結構です。

当局の皆さん、大変お疲れさまでした。

この後、農林水産課の報告事項があります。

午前11時44分休憩

午前11時45分再開

○委員長（田中藤一郎） それでは、休憩前に引き続き委員会を再開します。

次に、当局からの報告事項についてですが、コウノトリ共生部農林水産課から報告について申出があり、これを許可しておりますのでご了承願います。

それでは、コウノトリ共生部農林水産課からの説明をお願いします。

○コウノトリ共生部長（川端 啓介） 失礼します。

お忙しいところ、お時間いただきましてありがとうございます。

本日、ご報告事項、竹野町森本地区の治山の関係の概要の報告と今後の予定ということでご説明をさせていただきたいんですが、その前に冒頭、新聞にも掲載されましたし、皆さんにも全体としては議会で報告させていただきました積算の誤りのことについて、少しご説明とおわびを申し上げたいと思います。

日高町の頃垣から太田のほうに向かってます清

滝農免道路の、今日の事務概要の中にも山宮の擁壁補強工事ということでお知らせをしたんですが、この工事が入札を終わって契約を結んで2か月経過したところ、業者さんからのご指摘により、積算の誤りが判明いたしました。直ちに関係の入札の業者さんにおわびとご説明をさせていただき、既に契約して、段取り準備をされていた業者さんの契約を維持して、そのまま事業を進めるところについて、全業者さんのご理解をいただきましたので、挙行したと、工事は進捗しているところでございます。

気をつけてはいたんですが、また積算の誤りということで、市民や関係者の皆様の信頼を大きく失うようなことになってしまったことに対して、深くおわびを申し上げたいと思います。

今後はこういうことがないように、さらに関係の職員、気を引き締めて対応に当たってまいりたいと思いますので、またよろしくお願ひしたいと思いません。誠に申し訳ございませんでした。

それでは、本日の報告に入らせていただきます。

○委員長（田中藤一郎） 座って。

○コウノトリ共生部長（川端 啓介） 失礼します。

じゃあ、森本治山の関係は村田参事のほうから報告をさせていただきます。

○事務局主査（伊藤八千代） 資料はもうデータで。

○農林水産課参事（村田 一紀） 失礼します。それでは、竹野町の森本地区の治山事業につきまして、ご報告、ご説明をさせていただきたいと思います。

まず概要でございますが、先月、10月に竹野町森本の字ユリ地内で地滑りが発生をいたしておるのを確認をさせていただきました。影響範囲につきましては、幅が約190メートル、延長については220メートルと、約4ヘクタールのエリアが陥没、亀裂、崩壊が複数発生をいたしておる状況でございます。現在、兵庫県と対応についての協議を進めているところでございます。

図面をちょっと見ていただきますと、位置関係につきましては、旧の森本中学校を、竹野川を渡りまして県道1号線、日高竹野線ですが、それをずっと南のほうに向かっていきますと、すぐ今、竹野南の

コミュニティセンターがあると思いますが、それを向かっていただいた山になります。一部、森本については、竹野南の公園があるんですが、その谷ではなくて、1個南側の谷筋になりまして、近隣については竹野南のデイサービスセンター、ちょっとちっちゃくて分かりにくいと、申し訳ないんですが、デイサービスセンターが入り口には位置しておるとい位置関係になっております。地滑りの発生の現場については、この赤で囲った区域でございまして、詳細図を下につけております。これが約4ヘクタールの赤で囲ったルートが、作業道が白で表示をされておるんですが、その中、約4ヘクタールが一体的にずれ込んでおるといような状況になっております。

位置、写真が1番から3番までつけておまして、1番について、左側の1番の図面については末端です。地域の一番下側といったほうになるんですが、一番の末端の崩壊写真がこのように起きておまして、2番の崩壊写真については、約2メートル、人間、職員が写っておると思うんですが、約2メートルぐらいな陥没が既に起きておると。手前については、50センチ、1メートル未満の亀裂がかなり数か所、数十か所で起きてるような状況が見受けられます。3番についても同じような状況なんですけど、1.5メートルぐらいな崩壊が起きておまして、周囲一帯がそういう状況になっておると。

現状といたしましては、かなり精査をして現地も確認は取っているんですが、崩落の原因と、今の見立ては一番末端、1番の写真ですが、その崩落が起きて、全体がずれてきたといような状況でございます。当地区については、治山工事及びのり面の補強工事が数年、数十年前から盛んに対応策として、県、市なりが対応してる状況がうかがえますので、恐らくそういう地形だったんじゃないかなといふようなことが、現在のところ、推測をされます。

経過といたしまして、レジュメをちょっと見ていただきますと、経過を説明いたします。先月の15日に、地元猟友会、有害鳥獣だとかの対策でその山に入られた段階で発見をされて、すぐさま竹野町の

森本の区民の方に連絡がありました。区民の方から、すぐ県議のほうに連絡が行って、それから、農林水産振興事務所の所長のほうに連絡が入った次第でございます。25日については、農林の振興事務所のほうで現地確認をされて、翌26日に、我々豊岡市とも現地のほうを確認した次第でございます。対応策なりを考えて、2日の日、11月2日、今月2日ですが、県庁の治山課のほうと朝来の農林振興事務所の方とで協議を行った次第です。

朝来農林については、そこに地滑り対策室というのがありまして、豊岡の農林では通常の治山事業を対応されとるセクションがあります。ただ、大きな地滑りにつきましては、朝来農林に地滑り対策室というのがありますので、そこに対応ということになるために、2日の日に一緒に対応させていただいております。

今後についてですが、現在動いておりますことについてご説明をします。

豊岡市においては、周辺住民の方の危険周知のために、土石流のセンサーの設置及び伸縮計の設置を行いまして、動態観測をしたいというふうに思っております。それは、あくまで皆さん、地元の方の周知ということで段取りを考えております。

県につきましては、土質の調査ボーリング行いまして、外郭の調査を行って、今後の対策、事業のメニューを定めていただくということで、現地のボーリング調査に入っていくということでございます。

豊岡市のほうについては、先ほどセンサーの設置だとかということで、今、検討をしております。市役所、竹野の振興局、地元の区長さんなり役員さんのどなたか、それと今考えておりますのは業者と、その方々にセンサーで何か異常があったときに周知ができるようなものを、今考えておまして、具体的に委託業務の発注を行っていきたいというふうに思ってます。

その他について説明をさせていただきます。

事業期間ですが、動態観測、我々豊岡市のほうで行いますことについては、今年から来年2023年の複数年で調査を行うと。対策工事については、今

年、調査ボーリングなりで外郭を決めていただいて、県のほうで事業実施を展開をしていただくということで、ちょっと未定と書いてありますが、対策工事を行っていくということでございます。

現在、豊岡市の事業費といたしましては、概算で500万円の金額を予定をさせていただいて、当該観測を行っていきたいというふうに思っております。

最後ですが、規模がかなり大きいものですから、どういう恰好でというのは、すぐさま対応しておりますが、県のほうでの事業だということは認識をしていただいていたので、すぐさま動いて現状に至っていることでございます。その都度、また進展がありましたら、当委員会でもご説明をさせていただきたいというふうに思っております。

簡単ですが、説明のほうを終わらせていただきます。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

何か質問等ございますか。

松井委員。

○委員（松井 正志） ちょっと冒頭、謝罪のあった単価、積算誤りの関係でちょっと聞くんですけども、あれ、入札のとき、たしか最低制限価格以下で何社か落ちたか失格になってますよね。（「はい」と呼ぶ者あり）

その今回の積算誤りとその最低制限価格未満の業者がようけ出たということは、理由はつながらないということですか。

○委員長（田中藤一郎） 部長。

○コウノトリ共生部長（川端 啓介） 過大請求となっておりますので、最低制限価格も改めて計算しますと、4万円ほど下がりました。それによって失格になっていた方々の応札の金額と照らし合わせますと、1社、契約をしていた業者とは違う業者、1社が脱落していたであろうという金額になっております。そのことも含めて、該当した業者さん、こういう状況で御社が落とされて、落札されて契約されていた可能性はございますので、特にこの業者さんには丁寧にご説明なり、ご了解をいただけるか

ということで、ご説明やお願いをいたしました。

○委員長（田中藤一郎） 松井委員。

○委員（松井 正志） だけど、過大の単価で、要するに設計書も業者も全て応札をして、設計価格は当然それで積算してあるんでしょ。予定価格もその過大の設計で予定価格設定してあるんだから、今説明されてるようなこと、不都合が起きないんちゃうかな。全て全員が過大な設計内容で見積りをし、その予定価格も、過大な設計で予定価格設定したのだから、共通の土台で勝負しとるものだから、そういうことが起きないというふうに感じた、そうではない。

○委員長（田中藤一郎） 川端部長。

○コウノトリ共生部長（川端 啓介） 契約入札の有効性と契約の有効性については、今、委員がおっしゃったとおり、何らおかしいものはない、有効という判断は、それは法的にも、今回の例でもそうだし、ただ、その過大設計というのを、中身が、ある発電機の規格を切り抜き設計書というか、業者さんにも明示をしていたんですが、本来、明示していた規格よりも大きな規格の単価を入れてしまっていたもので、業者さんにはみんなが勘違いしてしまう状況の誤りだったということです。だから、過大になっていた部分は、今、契約をさせていただいてます業者さんにご説明をして、適正単価で変更させていただくというところは、ご理解いただいて、応じていただけることは確認してもらいましたんで、実際的には市へ損害を与えることはないんですけども、信頼性というところで関係者の信頼を低下させてしまったという状況です。すみません。

○委員（松井 正志） 業者が1カ月後に言うのは遅い。直ぐ言わないと。

○委員長（田中藤一郎） 気をつけて、しっかりとまた今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、この件につきましてはこの程度にとどめたいと思います。ご苦労さまでした。

○委員（松井 正志） 村田さんがダブルチェックしたの。

○農林水産課参事（村田 一紀） はい、しております

す。(発言する者あり)

○委員長(田中藤一郎) 12時過ぎましたけれども、このままささっと。

ご苦労さまでした。

次に、(2)委員会の運営方針についてを議題といたします。

参考までに、前期の重点調査事項を別紙1に記載しておりますが、改めて今期の委員会重点調査事項について協議をお願いいたします。

この件について、特にご意見等はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(田中藤一郎) よろしいでしょうか。大丈夫ですね。コロナもまだありますし。

では、これで皆さん、ご了承願えますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(田中藤一郎) ご異議なしということで決定いたしました。

続いて、(3)各種委員の選出について、別紙2にありますとおり、まず条例等によりまして、委員長の充て職として1から9までございます。これについては、しっかりとやってきたいというふうに思うんですけども、次に、互選によるものとしまして、当委員会から、豊岡市都市計画審議会委員を3名選出することになっておりまして、この件につきまして、希望者の委員があれば挙手をお願いしたいと思っておりますけれども、太田委員のほうから、ぜひともしたいというお話は承っております。その他、2名、どなたか、やってみたいなどかありましたら、どうでしょうか。

○委員(前野 文孝) じゃあ。

○委員長(田中藤一郎) 前野委員。

あと1人。

○委員(須山 泰一) 希望したいです、初めてですけど。

○委員長(田中藤一郎) じゃあ、須山委員。

皆さん、よろしいでしょうか。太田委員、前野委員、須山委員、3名にお願いしますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(田中藤一郎) じゃあ、3名の方、お手数かけますけれども、よろしく願いをいたします。

続いて、(4)委員会の席次についてですが、意見等があればお聞かせください。

なければ、もうこの席のままでいきたいなというふうに思っておりますけれども、このままでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(田中藤一郎) では、この席で決定いたします。

続いて、次第5、その他に入ります。

全体を通じて、委員の皆さんから特にご発言等がありますでしょうか。

○委員長(田中藤一郎) それでは、特に発言がありませんので、それでは、次第6、閉会。

ほかにないようですので、これで建設経済委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後0時05分閉会
